国立国語研究所学術情報リポジトリ

秋田県男鹿市脇本大倉方言

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国立国語研究所話しことば研究室 公開日: 2020-10-09 キーワード: 作成者: 北条, 忠雄 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003026

方言録音資料シリーズ—6

秋田県男鹿市脇本大倉方言

北　条　忠　雄　編

1968

792

国立国語研究所
49062
★図書館★

このテキストは，総合研究「地方における話しことば教育法改善のための基礎的研究」（代表者大石初太郎）の一部として，研究用の資料として作られたものである。

方言の録音方法，方言の表記の方法などのあらましについては，別に作った「方言の録音とテキストの作成について」（国立国語研究所　話しことば研究室編）を参照されたい。

ここに収めた方言の録音とテキストの作成とは，秋田大学教授 北条忠雄 が担当した。

国立国語研究所
1001877792

もくじ

収録地点とその方言について …… 2
表記について …… 3
本　文
(1) ＜なまはげ＞の話 …… 5
(2) 鳥コの話 …… 9
(3) 訪問の対話 …… 12
(4) ＜昔は苦労した＞という話コ …… 13
(5) ＜謎＞よもやま話 …… 21
(6) 弁慶の話 …… 27
(7) 男鹿地震の話（その１） …… 31
(8) 男鹿地震の話（その２） …… 37
(9) お昼の対話 …… 41
(10) おじいさんとおばあさんの喉(のど)コ …… 43
(11) 餅のかぞえ歌 …… 44
(12) 若い時の話ちよっぴり ―夫婦仲よくかせいだこと― …… 45
(13) やづのめ ―一つの花に実が八つなる梅の話コ― …… 46
(14) 繁次郎という男の話 四つ
① 鯨(かど)は川に …… 48
② 紅(べに)餅(もち) …… 49
③ 山さ行ってマギきり …… 51
④ 若勢(わかじえ)ぶり …… 52
(15) 昔　話
① 松かさ三升で炊事 ―嫁の資格試験― …… 54
② ＜やぐわん＞と＜めくされ＞それに＜じらみたかり＞の話 …… 57
③ 狐とむじなとを化かした話 …… 60
④ 無実の罪に泣く如来さま …… 63
⑤ ダンゴがドンになった話コ ―コブのおかげでやっとがダンゴに― …… 66
⑥ 風雅を解するジッチャとバンバ …… 68
⑦ 餅粉の整鼻術 ―昔の整形外科― …… 70
⑧ 米ぶぐと粟ぶぐ …… 72

収録地点とその方言について

1. 地点名：秋田県男鹿市脇本大倉

2. 収録地点の概観

船川線脇本駅から下車左折して4分ほどにて更に左折，船川線の踏切を越えて道路を北上すれば左手に見える（田圃をこえて）のが大倉である。さらに15分ほど北上，左折してこの部落に入る。北西に寒風山を望み頂上の展望台とさだかにみとめ得る，寒風山麓の小農村である。かって寒風山は樹木も鬱蒼と繁茂していた由で村人は田におり山におりて働くのが日常の仕事であった。現在は農業がもっぱらである。（山に働きに行くのもオリルという）

3. 収録した方言の特色

録音したものの中で特に留意したい現象は，

1. 推量に由利方言に見えるデロが見えることである。
   ドゴサ ツレデ イゲバ イインデロ 【10】
   但し由利の如くに広くあらわれているということはできず又<ベェ>も見えている。
2. 由利や平鹿雄勝を除いて意志法は，秋田方言では，終止形を使用するのが普通であるのにここではヤロガ（しょうか） コロガ（きようか）などの用法が見えている。イマダケァ シノダケァ タエヘンダデァ 【4】イマダケァ＝イマダバ （ケァ＝バ） シノダケァは秋田方言では死ヌゴッタバが普通である。シノダケァは<死のうだば>である。北越後でいうシノンダラに当る。
3. ガエ〔qae〕に，全く疑問の意味がない単なる<詠歎>としか考えられないものが見えている。
4. 秋田全般にヤルとケルとをすべてケルで表現する。ところが南秋田郡ではダスは相手にケルことでありケルは自分へ（くれる）ケルことである。普通のダスはどういうかとなるとこれはトダスという。（男鹿地震のところに見える）

4. 地点選定の理由

特別の意図はなかったわけであるが，ただ秋田市周辺或はそれに近い圏内が案外おろそかにされ又調査者自身としてもその傾向があったため，検討しておく必要があると考えたこと，同時にこの脇本あたりは男鹿半島と南秋田郡との境目にあたり，何か特異な現象もと考えられたこともあった。結果は果然注目すべく，向後さらなる調査と討究とを要することを確認した。（上記に一部摘録）

表 記 に つ い て

〔指定の字母以外に使用した字母，および使用した補助記号〕

特になし

表記は大体＜1966-10-20＞の＜方言の表記について＞に見られる表記法に従った。それと異る点は大体次の通りである。

(1) ＜イ＞と＜エ＞とは一応同じphonemeと判断され，かつ表記の便も考慮して〔ẹ〕とした。〔ẹ〕は〔i〕〔u〕〔e〕の中間あたりに位する母韻と考えての処置である。

(2) ＜シ＞と＜ス＞ ＜チ＞と＜ス＞に限り中舌母韻記号を使用した。例えば〔sɨ〕〔sʉ〕，〔cɨ〕〔cʉ〕 但し両者とも一つに統一せず＜シ＞に近く聞えるものを〔sɨ〕＜ス＞に近く聞えるものを〔sʉ〕とした。他のイ列 ウ列には中舌母韻の記号は用いていない。

(3) カ行タ行の語中有声化は一般に補助記号〔◡〕(t◡)を使用しなかった。一々濁音に表記することとした。というのは〔◡〕で終始すると，濁音でいわれたのに〔◡〕を入れ忘れたのではないかとも心配されるからである。但し少数〔◡〕を用いた。

(4) 〔k^{1}æ〕〔k^{2}ɛ〕〔k^{3}e〕 一応この三者を区別したが，2と3と境目あたりはどちらにしたとしても差支えない。

(5) 共通語訳はその意味を，解説を俟たずに把握しやすくするために，意識して当用漢字以外をも使用してある。

秋田方言の録音

1967・2・26
秋田県男鹿市脇本大倉

昭和４２年２月２６日　秋田県男鹿市脇本大倉で録音したものです。

脇本はもと南秋田郡に属し，秋田から船川にいたる船川線の船川へあと二つ目というところにこの脇本の駅があります。秋田市から脇本駅まで鉄道の距離で，３１.９キロ（メートル）あり，駅から大倉（被調査者宅）まで徒歩約２５分です。

取材録音の場所は，脇本大倉の吉田運蔵さんのお宅で，登場するかたがたは，おじいさんの吉田運蔵（夫）さん８４才とそのおばあさん吉田ナツ（妻）さん７７才，それに８３才の，吉田さん宅から近所へ嫁入りした安藤リワさんです。

語り手の中心となっているのは吉田ナツさんで聞き手は（秋田）県立男鹿高等学校の菊地教諭とわたくし北条です。

秋田市も，この脇本のあたりも（珍しく）もう雪はすっかり消えてよくはれたうららかな日和でした。

(1) 《なまはげ》の話

録音日時　1967年 2月26日
（同 9月3日 臨地検討）
録音場所　秋田県男鹿市脇本大倉（おがしわきもとおおくら）
吉田運蔵 氏宅

話し手

（略号）	（氏　名）	（性別）	（生　年）	（職業）	（居　住　歴）
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	脇本だけ
R	安藤リワ	〃	〃 17年生	〃	〃

解説：　男鹿半島の，今では広く宣伝されている，<なまはげ>〔 namahãŋe 〕の行事を話し合っている。昔の<なまはげ>を回想して今のそれと比較して，昔のは〔 a g-ɯdæ 〕で〔 okkanɛgatta〕が，今のはそうでなく，それに餅や酒などよりもむしろ銭〔 dʒeni-〕を欲しがっているなど話して，御代も変れば<なまはげ>も変るもんだとやや嘲笑している風情。

N namahãŋe-da ba hoNtone u-u-u-qte anoadari a(ra)-
ナマハゲは，　ほんとに（おそろしくて）　ウウウって　あのあだり
geba ora ɐma-demo daqkirado omou-dena, sono
歩くと　今でも　ダッキラと（ドキッ）　思うよな，　すぐその
adarisa kitaga-do omote.
あたりへ　来たかと　思って。

R ore-no masako-gada daqte ɐmademo oqkanæ
うちの　正子など　だって，　今でも　こわい（恐）
oqkanæqte ju·domo, uN kono ojanaqte-gara
恐いと　いうけれど　うん　子供の　親になってから
sje-ba namahãŋe oqkanæqte kagureru hito
それなら　ナマハゲ　こわいといって　隠れる　人
dogo-ni ɐruqte.
どこに　いるって。

N soN-de næ.
そうでない。

R uN↗
うん↗（ケゲンな面持）↗上昇調
怪訝

N soNde næ. ore-no kodoragada-daqte, ano naN-
そうでない。 オレの家の 子供たちだって, あの なん
(次のコトバを何と言い

damono, koNda kõdo kusɨra kagurenæ-de ere-
だもの, こんどは こんど こそ 隠れないで いろ
だしたらよいかちょっとよどむときのコトバ)

joqte jueba koNda-ha kagurenædæ-naNka eqte,
よって いえば こんどは 隠れないよなんか 言って,

Ndataqte ke·ba jaqpari oqkanɛgaru-mono-na.
それでも, (ナマハゲが くれば) やっぱり 怖がるものなあ。
こわ

R 笑

N ore-no masajugi-daqte, sje-ba ãNdano kõNda-
うちの 正之だって, そんなら ああだの こうだ

no ɛwarerujori ora ha hajægu kagureru-dæqte,
の 言われるより オラァ (俺) 早く 隠れるよと言って,

(不分明), kagureda moNda. sɨtaba, koNdo jaq-
…… 隠れた もんだ。 そしたら, こんど やっ

pari masajugi edaga, masajugi edaga, beNkjo
ぱり ナマハゲ「正之 いるか, 正之 いるか, 勉強

suruga, sanega, (笑) koNda sogora-adari
するか, しないか」 (といわれると こんどは そこらあたり
こわがって)

hasjede araqte nãNmo kãNmo narane-mononaja.
走って あるいて どうも ならないものねえ。

R ore-no odo-daqtemo, cɨqcjæ dogi, ano aedaq-
うちの 親仁だって, (Rの息子) 小さい 時, あの あれだっ

tadæ, ano zɨNzo-ni kagaqte nede aqte-mono.
たけ, あの 腎臓(病)に かかって 寝て おったもの。

N N・ N・
んん んん

R sɨtaba koNdo nedede, namahãŋe kitamama-dja
したら　こんど　寝ていて　ナマハゲ　着たままでは

udadeaNteganẹ ……
むさぐるしいので
～アンテガネ は理由表現

N hoNtonẹ so· ju· moNde aqta.
ほんとに　そう　いう　もんで　あった。

R a· ja. sosɨte agudæ næNteganẹ gomeNsɨte
うん，そうだ。そして，　おとなしく　するから　御免して

kereqte.
くれといって。

N sjeba koNdo gomeN sɨte kereqte wagino mono-
すると，　こんど　御免　して　くださいと言って，傍の　人

gada ẹqsjokeNme fuqpate araqte ＜R sage
たちが，　一所懸命　引っ張って　歩いて　酒

nomasjede＞ sage nomasjedena ＜R moçɨ dasɨ̥-
飲ませて　酒を　飲ませてねぇ　餅を　出し

te＞
て

N namahãŋe dogo-gara kitabajaqteba oẹdara-no
ナマハゲよ，　どこから　来たかというと　大平の

saNkicɨ-da. kada-no sũŋa wadaqte jaqtoga
三吉だ，　潟の　氷を　渡って　やっとか

kitaqtena.
来たといってね。

R NdaNte
そうだ。

N oẹdara-no saNkicɨdanoqte kiganɛ(aNda).
大平の　三吉だなどいって　きかないもんだ。

R （何か低声でつぶやく）

N ema-no namahãŋe-daba agudæ-nɛ.
今の　ナマハゲは　おとなしい。

R u·N
うん

N naNmo oqkanægunæ, sosɨte sjeba futogæri-jori
少しも 恐ろしくない, そして すると 一遍しか

konæ moNda mono.
来ない もんだ もの。

R Ndana.
そうだ。

N modo migumi kitajaçɯ sjeba,
以前は 三組 来たのに, すると,

R migumi futogæri-jori konæaNte kifu-mo futa-
三組 一遍しか 来ないから 寄付も 一遍

gæri-buri oriæ-no uçɨ dasɨtejara·.
ぶん オレの うちは 寄付したよ。

N a·e mãda mãda çɨdeqko dasita. moçɨ-daba
うん まだ まだ 祝袋 出した。 餅は

dasɨte jaNnɛ.
出して やらない。

R moçɨ ɐranɛqte ju· mono, sjeba, kane-bari
餅は いらないと いう もの, すると, 金ばかり

hosigaqte naNto
ほしがって 何と

N ɐma mijo kawaqte koɐba namahãɲe-made kawaq-
今, 時世が 変って くると ナマハゲまで 変っ

te,
て,

R Ndaja.
そうだ。

N koNdo, futagæri migæriæarugu jaçɯ koNdo fu-
こんど, 二遍 三遍と 歩くのを, こんど, 一

togæri-ni siru moNda-mono.
遍に する もんだもの。

【2】 鳥 コ の 話

録音日時　1967年2月26日
録音場所　秋田県男鹿市脇本大倉
吉田運蔵 氏宅

話し手

(略号)	(氏　名)	(性別)	(生　年)	(職業)	(居　住　歴)
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	脇本だけ
R	安藤リワ	〃	〃 17年生	〃	〃
S	吉田家主婦	〃		〃	〃
H	北条忠雄		(聞き手　編者)		

解説：　<鳥>についての質問対話。いわば共通語的のHと方言N・Rとの対話ということになるが，方言側がN・Rと，それにSも加わっているので，それにHが方言をかなり理解するとも(NRSが)考えているので，N・Rの<話しことば>は方言とまず考えても支障はない。内容はダオ(朱鷺ートキー)から，フクロ・ミミヅクに及んでいる。フクロウをこのあたりで<フグログ>ということが見えている。

H　so:suru-to, dao no kurunoーwa, nawasiroーe oriー
　そうすると　ダオ(朱鷺の方言)の　くるのは　苗代へ　おり
　ru koro kuru wakeーdesjo:ka.
　る　頃　くる　わけでしょうか。

N　naNtogaーnaNdaga ora wagaraーnɛ. wagaraneーdomo
　どんなものやら　オラ　わからない。　分らないけれど(とにかく)
　harusagi naNneーba konæaNtenæ. nawasiroーdaba haー
　春先に　ならなければ　来ないのではない?　苗代は　春
　rusagiーni nareba kagaruーmono. ora emiーdaba siranæNtaーja.
　先に　なれば　仕事にとりかかるもの。　オラァ　意味は　知らないんだや。
　(トキそのものの本体ほどの意味)

H　sa:　daoーwa mita kodo naẹ wakeーdesuーne.
　さあ,　ダオは　みた　こと　ない　わけですね。

N
R　Nda
そうだ。

N　gaN-no　ẹNda(mõ)da-ba　jaqpa　modo-daba　kịtata-
雁の　ようなものは　やっぱり　以前は　来たけ

taqte,　konogoro-daba　gaN-mo　ko-nægunæ?
れど　このごろは　雁も　来ないではない?

R　Nda　Nda.
そうだ，そうだ。

H　fuguro-nado　orimasụka.
フクロなど　おりますか。

R　haẹ　fuguro-daba　ẹmasʉ.
はい，　フクロは　います。

N　Nda.
そうだ。（Rの<はい，フクロはいます>に相槌を打った）

H　mimidzugu-wa?
ミミズクは?

N　mimidzugu-qte　jadzʉ-sjæ　fuguro-no　koqte
ミミズクと　いうのは　フクロウの　ことでは

nɛgæ.
ないかね。

S　cɨgau.
違う　（小さい声）。
低い

N　so·ga,　cɨgau-gaẹ.
そうか，　ちがうかね。

S　fuguro-no　do-sa　mimi　cuderu.　（このあたりHへの応答でなく
（ミミズクは）フクロの　所へ　耳が　付いている。　お互の私語的なもののため低

声ではっきり聞き取りがたいものもあるが大体こんなところであろう。）

N　hoNtonẹ-ga.
そうか。

R　daqte,　fugurogu-daba　negoqko-no　cʉraqko　midæ̃N-
でも　フグログ（方言）は　猫の　顔　みたい

dajadzɯ-de-nɛ.
なものでない?
(急声)

N mimiqko cɯde-ga.
耳 付いてか。

R uN.
うん(そうだ)

N daqte sore-sje mimidzugɯ-da ko(q)te, sɨtara-
だって それ みみづくだ ことよ, したらよ

ʃæ. ora fugurogu ʻho:seNʼqte naguandaba ki:-
オラ(俺) フグログの ホーセンといって 鳴くのなら 聞
(<耳がついていたら>の気持)。
deru taqte-na.
いている けれどなあ。

R negoqko-do hitocɯ-da-goqta.
猫と (まるで)おなじだ。

N ʻho·seNʼqte jueba sora egu narusɨ, ʻho·ho·ʼqte
ホーセンって いえば 天気が よく なるし, ホーホーって

jueba ame furuqte naja.
いえば 雨が 降るって いうな。

R uN.
うん(そうだ)。

N so·ju·de næ. ʻnoricɯke ho·ho·ʼte-ba ame furu-q-
そういうでない? ノリツケ ホーホーっていえば 雨が 降るっ

te ju·-sɨ, ʻnoricɯke ho·sjeʼqteba sora egu
て いうし, ノリツケ ホーシェっていえば 天気が よく

naruqte(笑声)。
なるって……。

【3】 訪 問 の 対 話

録音日時　1967年2月26日
録音場所　秋田県男鹿市脇本大倉
吉田運蔵氏宅

話し手

（略号）	（氏　名）	（性別）	（生　　年）	（職業）	（居　　住　　歴）
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	脇本だけ
R	安藤リワ	〃	〃 17年生	〃	〃

解説：　晩，NがRを訪問。話ははずまず簡単な内容で終ってしまっている。

N　ba·ba　edaesɯka.
　婆(ババア)!　いたかね。

R　ha·e.
　はい（いるよ）

N　sɨmaqtaga－ha.
　（ごはん）終ったかね。

R　a·
　はい。

N　oẹdaqke　mãda　(ẽN)　waŋko－mo　arawanedomo　omæ－
　オレなら　まだ　お椀も　洗わないけれど　お前

　sa　asɯni　kitaẹ.
　のところへ　遊びに　来たよ。

R　jogu　kita－nesɨ　mãdzɯ　agaqte　kunaNsje(qtejuq－
　よく　来たね　まず　上って　ください（ってこんな風に言

　tegæ).
　います。

N　un　omæ－no　agacjaN　mada　oqkigu　naqtajo.
　うん　お前の　赤ちゃん　また　大きく　なったね。

R kono-kræ naqta(j)e, na·Nto agudæ-de naNmo kaN-
このくらいに なったよ。 なんと わんはくで どうも

mo narane.
ならない。

N nda. haqte arugu kode-ha.
そうだ。 這って 歩く こったろうね。

R n· aNde arugu-ha.
ン (這わないで) 歩いて(立って)歩くよ。

N omæ-no ka·saNmo jama-sa eqta-gæ.
お前の 母(かあ)さんも 山へ 行ったかね。

R eganɛ.
行かない。

N ũN e·na.
フウン いいなあ。

【4】 〈昔は苦労した〉という話コ

録音日時 1967年2月26日
録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉(おがしわきもとおおくら)
吉田運蔵氏宅

話し手

(略号)	(氏 名)	(性別)	(生 年)	(職業)	(居 住 歴)
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	脇本だけ
R	安藤リワ	〃	〃 17年生	〃	〃

解説: 二人の老婆がしみじみと語り合っている。昔と今とをくらべ昔の農業の容易でなかったことが,今の状態とひきくらべられて,具体的に語られていて,それに昔のシツケのきびしさと今の安易さあるいは放縦さというかそういうものにも言い及んでいて,まことに胸を打つものがある。さらに特筆したいのは,この苦労して来た老婆が働けなくなった今いかにも生きていることがお笑止だという気持で生きていることである。この対話は老婆二人が低い声で話しあいはじめ

たのを── 老婆たちはこんなのは録音されていないと考えていたらしい── 録音したもので真実の胸にあるものを吐露した対話である。

〔いいなおして〕

R na:nto jqpari wagæ mono daba wagækụte sjeba
なんと やはり (若いものは) 若くて(若い時) ずいぶん

naNbo kuro·sɨtamo ade nɛ ore.
ずいぶん 苦労したが その価(あたい)が ないよ, オレは。

N naNtosɨte,. kono baba naNte cɨtobari kurosɨta
何として, この 婆など 少しばかり 苦労した

hito-denɛ. so(s)ɨte sora hasɨ eqpoN tajoqta-
人でない! そして それ 箸 一本 (他(ひと))にたよっ

de· wage nægu kamãdo moqte ẹma nareba nani
たという わけでも なく 家を 持って 今に なれば 何一つ

ne·de kodo nægu a· jaqte kurasɨteru-mono.
ないという ことも なく ああ やって (立派に)暮しているもの。

kono hito-no daẹ-ni kamado kosɨradaNde unte
この 人の 代に 家(財産)を こしらえたんで ほんとに

naŋŋi sịta hitoda.
難儀 した 人だ。

R ora ẹma-daba sono kaNzjo nɛẹ. naNmo sanæ-te-
オラ 今なら そんな つもり(勘定) ない。 何も しなくて

mo asɯNderaruNda.
も 遊んでいられるもの。

N ndaẹna· asɯNde.
そうだよなぁ, 遊んで。

R N·
んー。

N kudagedaẹ.
食うだけだね。

R sore-demo oreẹ-no kijosɨ-dakɛ, baba mo· ni-
それでも, うちの 清なら(は) 婆 もう 二

neN sɨnanɛde kereja·te jumoNda.
年は　死なないで　呉れやと　言うもんだ。

N N·
んー。

R ɐma-dakjɛ sɨnodakjɛ taeheNdæqte ju·moNde……
今(は)　死のうなら　大変だって　いうもんで　……

N maŋŋo-ga.
孫か?

R N· ko ho·ræ. N kadede morauqtega.
んー, 子よ, ほれ。　かでで　(世話して)もらうというのか。

R N
ん。

R dakjæ, aja (aNna moN hicujode) ɐgiderajæqte…
したら, まあ (なにが必要で) 生きてるのかって……
不分明　不分明

N ɐgidera-jadzɯ warigodo newaja. kwasjeru
生きているの　わるいこと　ないよ。　食わせ(してくれる)る

hito sjeba ɐgidereqte jukoqtaba naNbo-demo
人,　(それなら)　生きていろと　いうのなら,　オラ(俺)いくらでも

ɐgira.
生きるよ。

R na ni…… ɐmadakɛ sje-ba maNma sjaqto nizjN
なぁに,　今なら　(すると)　飯　サァーと(少い形容)　二杯も

are-ba ɐqideraru mono.
あれば　生きていられる　もの。

R ……na·ni aNmari nagægu ɐgideru jadzɯ-mo
……なぁに　あんまり　長く　生きてる　のも

ɐgunɛdɐa.
よくないよ。

N uN· ↗
うんー ↗

R aNmari nagægu egiderw-mo ɐgunemoNda.
あんまり　長く　生きてるのも　よくないもんだ(いいもんでない)よ。

N daqte sɨgadanɛna.
だって　仕方ないよ。

R aja sɨnudaqte sinarɛnɛsɨnaja.
ああ，　死ぬといったって　死なれないしなぁ。

N waqæ mono-nẹ cɨto-aNdo sasjeretataqte ẹgi-
若い　者に　一安堵　させろといっても　生き

deru mono naNto sɨte, oranaNka futaridzɯre-
ている　ものを　何と　するって，　オラなんか　二人連れで

de jaga naqteru-domo.
厄介に　なってるんだが。

R ẹsogasɨ dogi-daba so·ju·taqte koNdo horjæ
急がしい　時なら　そういっても　こんど　それ

sɨ̃ŋodo negu naqte nareba koNdo jaqpari
仕事が　なく　（なって）　なれば　こんど　やっぱり

koNda sjosɨde……
こんどは　笑止（恥ずかしく）で……

N sjosɨ-to omoeba sjosɨ-sɨ, ora-naNte do·se
笑止だと　思えば　笑止だし，　オラなんて　どうせ

（反語法）俺
nani…… koremademo asɯNdemo ẹdabesɨ, ku·da-
なぁに　……　これまでも　遊んでいたわけでもないし　食うだ

ge-no kodo sɨtaNda-mono, nani. ẹma-mijo-daba
けの　こと　したんだもの，　なぁに。　今時（いまどき）では

ta-mo kawe-ne-sɨ jama-mo kawe-ne-taqte, ku-
田も　買えないし　山も　買えなくても，　食

ta-kiri-ni sɯru-tatate, modo sje-ba naNto
うだけで　何も出来なくても，　それなら　もとは　なんと

naNda moNde aqtate heba-naja.
どうした　もので　あったってえ。

R Ndaqte.
そうだ。

N ẹma-daba naNbo hadarada-tataqte ku· ade-nẹ
今は　どんなに　働いたところ　食う　アテには

sarene, naNdara hitodaqte, maruqkiri kikae-ne
されない, どんな 人だって, 何もかもすっかり 機械に

bari jaqte-na.
ばかり やってねえ。

R N·
ん

N ajasite omœgada Ndaene nenedi ene kogune
あのようにして お前がた あのように 寝ないで 稲 こきに

aqtari, soekoso jorugara joru-made hadaragu-
歩いたり, それこそ 夜から 夜まで 働きに

ne aqte. ema no mono-daba dare sjeba.
歩いた。 今 の 者なら 誰が そんなことするものか。

R aeja.
そうだ。

N hiruma-made ene agede kite, hiruma-kara
昼間まで 稲 上げて 来て, 昼間から

kome-ne site simaqte cjaNto siteru-denaja.
米に して しまって, ちゃあんと しているよなあ。

R hoNta uN
ほんとだ, うん。

N ene kara agedaqteba koguni eboœ.
稲 から 上げたといえば もうこくに いいだろう。

R ema-daba e·……(聞きとれない)
今は いい(なあ)

N N· modo baga-midœde aqtadena.
ん。 むかしは まるでバガみたいで あったなあ。

R Ndae.
そうだねえ。

N mamaNde enjo-ne cuNde sjogwadzu kuru-made
すっかり 稲鳥に 積んで, 正月が 来るまで

kagate ene kanagogi moqte koede.
かかって 稲を カナコギで こいで。

R hoNtone ano zjogeN moqte osɯ adzɯ-ne ano fũN-
ほんとに あの ジョゲン で 押す のに ヒビ
(皮軍)

biN jamaN naqte-na.
が 山に なってな。

N Nda. site kojasite ora-naNte ogosjenegaqtadæna.
そうだ。 そして, こういうようにしてオレなんて(指を) おこせなかったなあ。
(指を屈めておこす所作をする)

R jasɯme-ba kono te-no naga buru buru buru buru-
休むと この 手の 中 ブル ブル ブル ブル

qte are te ko·jasite hitogærine ogosaene
と, あれ このようにして 一遍では おこされなかった

moNde aqtadena, ano zjogeN……
もんだったなあ, あの ジョゲン ……

N hoNta. komeqko-no zjugohjo-mo fugu-dage
ほんとだ。 米の 十五俵も ひくだけ

ene tamere-ba niwa-sa jama-N narudage tama-
稲を ためると 庭に 山に なるくらい たま

qta-moNda-dænaja, kanagogi-ne koNda dogi-
ったもんだよなあ, カナコギに こいだ時だ と。

dabana. sore koNdo edʒiNdʒi kagaqte tada-de.
それを こんど 一日 かかって たたいで…。

naNgi sita-do omoeba emaN nare-ba baga-mi-
難儀 したと 思えば 今に なると バカみ

dæda.
たいだ。

R daqte sono to·ri-daqta (mono).
だって, 全くその 通りだったもの。

N N.……
ん。

R ema-naNte nadzɯ-mo furi-mo kudzɯsita hana-
今は 夏も 冬も 靴下 放

sanede tajama-sa haqtera.
さないで 田や山へ 入ってるよ。

N N.
ん。

R sje-ba ẹmanẹ nawasɨro-sa orire-ba asɨ horo-
すると, 今に 苗代へ おりれば, 足を 入

qte-mo 〈N hoNtoda〉 hãdasɨ-ni naqte haẹtajẹ.
っても ほんとだ はだしに なって 入ったよ。

N so(r)e-koso, nawasɨro-sa haẹru joni naqtara,
それこそ 苗代へ 入る ように なったら,

jome mugo nĩŋere-te, so eqtatate ẹma-no
嫁 聟 逃げろって そう 言ったにしても, 今の

mono-da-kjæ naNbo nawasiro-sa haẹtaraqte
者なら どんなに 苗代へ 入ったところで,

fukæba fukæ joni togonãŋaderadaqte hagi 〈R
深ければ 深い ように トゴナガとやらを はき
(特長ー特別に長いゴム長靴)

Nda〉 asæ-ba asæ joni sụẹdeNguçɯ-dado naNda-
そうだ/ 浅ければ 浅い ように 水田靴とか 何とか

do so ju jaçɯ hạde, e-sa ãgate kita-do omoeba
そう いう ものを はいて, 家へ 上って 来たかと 思うと,

asɨ-mo arawanede, ta-sa ẹqte kite-mo sono
足も 洗わないで 田へ 行って 来ても その

maNmanẹ aga-te hĩzjako oqte maNma kuqtera.
ままに 上って 膝を 折って 飯を 食ってるもの。

〈R, aja Nda〉 ora sjeba ta-sa ẹqte keba ẹ no-
うん, そうだ/ オラ, すると, 田へ 行って くると 家の

mesa miNna hãNdaga ni naqte kiru monomãde
前に みんな 裸 に なって 着る ものまで

miNna oẹde kite soẹte beçɯda açɯ cɯkede
みんな おいて 来て そして 別なのを つけて,

soete mada oride ẹguqteba mada sore 不分明 ……
そして また おりて いくといえば また それを (「着て行った

もんだ」くらいのところ)

R ……mugasɨ-no moNdakɛnara hoNtonẹ ẹma-no
昔の ものなら ほんとに 今の

hito-ni jarasjereba……
人に やらせれば

N daqte, ẹmagara mireba oradaçi jogu jamæ
だって, 今から みると オラ達は よく 病気を

sanæde ẹgideda-do omouna.
しないで 生きていたと 思うなあ。

R NdaNtega.
ほんとだ。

N soẽdemo kono ora sjeba naNboga zjo·bunẹ
それでも, この オラ すると, どれほど 丈夫に

degida moNnaNdaga omædano orada-naNte hoga-
出来た ものなのだか, お前だの オラなど よそ

gara mimæ hitoçʉ moraqta kodo nædenɛ.
がら 見舞 一つ もらった こと ないではないか。
ひと

R. hoNtaganẹna.
いかにもそうだ。

N naNto, ……cjo sɨNkicɨbaba nederaqtegæqte ẹqta
なぁんと, 今日 信吉の家の婆 寝でいるって いった
(Rの家)

kodo-mo næ-sɨ, mogu-no baba-dano dzɨqcja-dano
ことも ないし, モグの 婆だの 爺だのが
(Nの家)

nederaqte
寝ているって,

〔R〕 sosa mĩNçʉko koboreda-dæ 〔N〕 uN ↗
そこへ 水が こぼれたよ うん ↗

〔R〕 miNçʉko koboreda 〔N〕 Ndaga 〔R〕 uN
水こ こぼれた そうか うん

so·ẹqta kodo kida kodo nædene.
そういった ことは 聞いた ことが ないではないか。

S kida kodo næde nɛ-do.
<聞いた こと ないでは ないか>とよ。

R Ｎda．
そうだ（そのとおりだ）

【5】＜謎＞よもやま話

録音日時　1967年2月26日
録音場所　秋田県男鹿市脇本大倉（おがしわきもとおおくら）
吉田運蔵氏宅

話し手

（略号）	（氏　名）	（性別）	（生　　年）	（職業）	（居　　住　　歴）
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	脇本だけ
R	安藤リワ	〃	〃 17年生	〃	〃
S	吉田家主婦	〃	40才くらい	〃	
K	菊地正信		（聞き手　高校教諭）		
H	北条忠雄		（聞き手　編　者）		

解説：＜口のない樽＞（卵）　＜削れば削るほど大きくなる＞（シェギー小川）　＜クロペジンジョの力（チカラ）はり＞（自在鉤）　＜ハリのヨエにバンバイドウンデル＞（蜘蛛）　後二者が発音やアクセントも関係して話がもつれる。ウンデルなら＜子持つ＞（生んでる）ことだ。これはウンデルだと80才の老婆はいう。ウムは＜績む＞でこれがまたもつれて愉快である。

N sore-gara sono kuçino nɛ taru-wa tamãgo.
それから　その　口の　ない　樽は　卵。

R 笑

N kẽzure-ba kẽzureba futegu naru.
削れば　削るほど　太く　なる。

R 笑

N ba·ba togedjæ.
婆　解けよ。

R （笑）　　S ana　　N uN ↗
穴　　うん ↗

N sjegi　　S ana-mo
せき。　　穴も。

N kẽzureba futegu narunega.
削れば　　太く　　なるではないか（なるだろう）

R sjegi sjegi
関　　関

N kawa-no koqta.
（小）川の　　ことだ。

K taNbo-no-ne.
田圃のね。

H ha· kẽzureba kẽzuru hodo futogu naru.
はあ，削れば　　削る　　ほど　　太く　　なる。

K e· kẽzureba kẽzuru hodo futogu naru.
えー。削れば　　削る　　ほど　　太く　　なる。

N sorede mãda jaqtemo ẹsɯka.
それで，　　まだ　　しても　　いいですか。

H ẹkura-demo.　　（N・R・笑）
いくらでも。

N ogasɨku naqte kuru-dæ, ora.
おかしく　　なって　　くるよ，　　オラァ（俺）。

◇　　◇

N kurope-zɨNzjo-no-cɨkarahari.
クロペジンジョの力はり。

R kãNŋi.
鉤（自在鉤）。

N Nda, sono kãNŋi-da.
そうだ，　その　　鉤だ。

H kurope-zɨNzja-desuka.
クロペジンジャですか。

N kurope-zɨNzjo, kurope-zɨNzjo-no ç.ikarahariqte
クロペジンジョ, クロペジンジョの 力はりっていうのは

sore furoe moNda.
それ 古い もんだ。

R mugasɨ-no moNda. are are ano kãNŋi-no koqta.
むかしの もんだ。 あれ あれ あの 鉤の ことだ。

K kuropeqte kuroidesjo· zɨNzjotena zɨNzja-to
クロッペとは <黒い>でしょう。 ジンジョというのは <神社>と

onazɨ imi, zɨnzjoqtenaNno koto-desuka.
同じ 意味? ジンジョっていのは 何のことですか。

N zɨNzjoqteba ora-daba sodone tadaqteru are
ジンジョといえば オラなら 俺 外に 立ってある, あれ

maçɨ-no zɨNzjo-sama.
町の 地蔵様。

K zɨzo·samano koto-dana, kuropezɨNzjo-no cɨkarakã-
地蔵様の ことだな, クロペジンジョの 力鉤 チカラカギ

ŋi.

N cɨkarahari
力はり。(Kのチカラカギを訂正したもの)

K cɨkarahari, cɨkarahari sorega kãŋi-no koto.
力はり, 力はり, それが 鉤の こと。

H kurope zɨNzjo-no,
クロペジン ジョの,

N cɨkarahari
力はり

H cikarahariqte do· ju· koto-desjo·.
力はりというのは どう いう ことでしょう。

N cɨkara, cɨkara cujoe-de koqtaNda.
力, 力が強い という ことなんだ。

K kãŋi-wa naNdemo ãŋeru-gara cɨkara cujoeqtekoto.
鉤は なんでも 上げるから 力が強い ということ。

N a·e naNdemo.
そう，なんでも（上げるから）

K kurokutene.
黒くてね。

N naNdara nãNbe kagedemo,
どんな　鍋を　懸けても，

K hahaN, sono kãŋi-da-kara-ne, çujoi-to.
ははぁん，その　鉤だからねえ，　強いと。

N cɨqcjæ jaçɯ kagedemo, oqki jaçɯ kagedemo,
小さい　のを　かけても，　大きい　のを　かけても，

H zɨzo·kãŋi-desune
ジゾウカギですね。

N kurope zɨnzjo-no cɨkarahari
クロペ　ジンジョの　力はり。

H cikara no cujoeno-o cikarahari-to juNdesuka
力　の　強いのを　力はりと　いうんですか。

N N·da
そうだ。

K kotae-ŋa zɨzæ-kãŋi-dasɯ-na
答が　<自在鉤>ですな。

N hari-no joe-ni baNba edo underu.
ハリの　ヨエに　婆　糸　ウンで（い）る。

K hari-no joe-ni baNba,
ハリの　ヨエに　婆，

N baNba edo underu.
婆　糸　ウンでる。

H edo ……hari-no joe-ni ↗
糸　ハリの　ヨエに　↗

N aN.
うん。

R kũNboNta-bæ
クモ（蜘蛛）だろう。

N N ↗
ん ↗

S kũbo-no sʉ-dado
クモの 巣だと。

R kũbo-no sʉ
クモの 巣。

H baNba ẹdo ……
婆 糸 ……,

(ũmʉũmʉカト思ウが下の如く聞える)
N a·e mugasɨ-daba ẹdo nunusɨta moNda monona,
うーん むかしは 糸を 績み(う)績み(う)した ものだ ものなあ,
聞きとれない
-ni. sosite hari-no joe-ni baNba ẹdo uNderu,
…に。 そうして ハリの ヨエに 婆 糸 績んでる,

nãzo kagedaaNda.
謎を かけたのだ。

H hari-no jome-ni,
ハリの ヨメに,

N joẹ-ni
ヨエに,

K joẹqte ue-no koto, ue-no koto joẹqte hacuoN
ヨエって <上(クエ)>の こと, <上>の こと ヨエって 発音

suru,
する,

H naruhodo hari-no joẹni baNba ẹdo ju·
なるほど, ハリの 上に 婆 糸 ユウ

N ẹdo uNderuqte
糸 ウンデルって(いうのだ)

H ẹdoNderu ↗
イドンデル ↗

K ido nuqteruNdesubæ.
糸 ぬってるんでしょう。

N ko·site ẹdo umuqteba ……ẹdo umuto jueba……
こうして, 糸 ウムっていえば ……糸 うむと いえば,

K　i d o　uNderuNdesuna　h a haN
糸　ウンデルンですなあ，　ははぁん。

N　nãŋagu　narasjeru　eni　ko·　j o r i　k a g e d e　＜H
長く　ならせる　ように，こう　撚を　かけて

haha·　naru-hodo＞　j a q t a　moNda　m o n o .
ははぁ！　なるほど　＞　やった　ものだ　もの。

H　h a r i - n o　j o e n i　baNba　e d o　ūNderu
梁(ハリ)の　上(ヨエ)に　婆　糸　ウンデル

N　e d o　uNderuqte-aNda .　ūNderu-dara　moçuaNtategæ.
糸　ウンデルっていうんだ。　ウンデルなら　(子)持つ(産んでる)ことだよ。

K　uNderu　uNderu
ウンデル，　ウンデル，

N　a·
うん。

K　n u·k o d o - n e
<縫う>ことねえ。

N　N·　N·　no·goqte　nɛaNda　k o r e .
ん　んー，<縫う>ことでは　ないんだ，　これ。

H　cunãgu　k o t o - d e s j o·
つなぐ　ことでしょう。

K　(cunãŋu　k o t o)　h a　h a·
(つなぐ　こと　)　は　はあ。

N　çineqteru　jaçudamono,　k o·
ひねってる　のだもの，　こうして。

H　a·　cumũgu　k o t o - d a n a
あぁ，<つむぐ>　ことだなぁ。

N　nãŋagu　suru-nada .
長く　するのだ。

K　h a　nãŋagu-suru-na
はぁ　長くするの(だね)。

H　k u m o - n o - s u　d e s u - k a
クモの巣　ですか。

N Nda
そうだ。

H kũNbo-desjo·
クンボでしょう。　　(発音についていう。〔kumo〕でなく〔kũbo〕だろうという意味)

N ˜a · kũbo
R うん　クンボ

H kũbo-no-su
クンボの巣

N N·
R うん。

〔6〕 弁慶の話

録音日時　1967年2月26日
録音場所　秋田県男鹿市脇本大倉(おがしわきもとおおくら)
　　吉田運蔵氏宅

話し手

(略号)	(氏　名)	(性別)	(生　年)	(職業)	(居　住　歴)
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	脇本だけ
R	安藤リワ	〃	〃 17年生	〃	〃
U	吉田運蔵	男	〃 16年生	〃	〃
H	北条忠雄		(聞き手　編者)		

解説：　武蔵坊弁慶そのものの話ではない。弁慶の立往生にさも似たる魚剣具のベンケイである。<鯨ノ一本ザシトカケテ牛若丸ト解ク><マグロノ一本焼トカケテ牛若丸ト解ク>いずれも心は<ベンケイが恐れる>からだ。このベンケイも，囲炉裡がすたれ電気焼器がさかえ，味の素デラいの一番デラがはびこるとなると，それに人の口(クチ)も奢ってジャコなどベンケイ用の小魚などに目もくれない時世となっては，もうそのものも名も忘れられつつあり，やがては永遠に消えてしまう。こんな運命のベンケイについていろいろと話しあってみた。

H ano beNke·qtena arimasu(ka) siqte oẹdedesuka.
あの ベンケイというのは (言いなおして) 知って おいでですか。
(ありますか)

N modo-daba beNke·qtenaja 〈R N〉 baba, ko·jo·
以前なら, ベンケイというのは, なあ 婆, こういう

do-sa ……kãŋoko-sa warako zɯqpari sjede so-
ところへ ……籠に 藁を いっぱい 入れて そ

site sãŋedede kono aNbæni aNbæna kono-guræ-
して 下げておいて こんな, 具合に, 具合な, このくらい

barini açɯ sãŋedede soresa koNdo kusɨ-sa
ほどに, ものを 下げておいて, それへ こんど 串に

sasɨta sagana zɯqpari ko· sasɨtesɨta moNda
刺した 魚を いっぱい このように 刺した ものだ

monona. uẹsa sãŋedede nego kwaNne te·doni.
もの。 上の方に 下げておいて, 猫が 食わない 程度に。

H ẹmawa aNmari mieṇae wagedesuka.
今は あんまり 見えない わけですか。

N ẹma so· sanæaNda mono-na. ano ro, ro nɛ·moNda
今は そのように しない もんだものなあ。 あの 炉, 炉が 無い

mono. ẹrori nɛ·moNda mono. kusɨ-sa jaẹde
もんだもの。囲炉裡が 無いもんだ もの。 串に(さして) 焼いて

kuta sagana-no eni Nmægunetatate ẹrori ẹma
食った 魚の ように うまくないにしても, 囲炉裏 今

ẹrori nækute kusɨsa sasɨte aburanemonona.
囲炉裏が なくて 串に 刺して あぶらないものねえ。

sjeba kusɨ-de nɛ·ba nani-sɨte sore amiwadasi-
すると, 串で なければ, なにして, それ アミワタシ

dano ano jare saganajagi danoqte jageba
だの あの やれ 魚焼きだの いって, 焼けば

sore çedo-sa toqte sɨte ku·mono. jogena jaçu
それ 瀬戸物へ 取って そして 食うもの。 余分な ものを

moqtede modo-no jo·ni-daba ãburanɛsɯnaja.
持っていて, もとの ようには あぶらないものねえ。

R ãburanɛsɯ.
あぶりません。

N modo-daba sjeba zjako-demo naNdemo cɨkamede
もとなら, すると, 小鮒でも 何でも つかめて

keba beNke-mo namo kũzureqtage sasɨte sosɨ-
くると, ベンケイも なにも 崩れるくらい 刺して そし

te sore dasɨ-ni toqte kuqta moNdatate, ema-
て それを ダシに とって 食うた もんだが, 今な

dakjæ na·ni dasɨqte jueba jagibosi-dera
ら なぁーに ダシと いえば ヤギボシだの

daqte-kodeno ko·midæna monosjede kuqta ……
などいったものや 粉みたいな もの入れて 食っている ……

ora-mo sɨranetaqte nibosɨnaNdaga jagibosɨna-
オラも 知らないが, ニボシだが ヤギボシ

Ndaga kaqte kite sosɨte azɨnomodo-dera-daqte
だが 買って 来て そして 味の素とかいって

sjede sosɨte kuqteru-de nɛgæ.
それをいれて そして 食ってるで ないかね。

U kuzirano iqpikizasi to kakete naNto toku, kokoro-
<鯨の 一匹刺し> と かけて 何と 解く, 心

wa beNke·mo komaru. usiwakamaru-wa taiheN
は <弁慶も 困る>。 牛若丸は 大変

cujoi-kara beNke·mo komaqta wake-desjo· aite-
強いから 弁慶も 困った わけでしょう, 相手

ga dekinakaqtadesjo·. mada sono kuzira-no iq-
が できなかったでしょう。 また その <鯨の一

pikizasi-wa kuzira-wa o·kie moNdesjo·. beNke·-
匹刺>は 鯨は 大きい もんでしょう。 弁慶

wa ciesakaqtadesjo·. dakara kuzira-o totemo
は 小さかったでしょう。 だから, 鯨を 取っても

beNke·no naga-ni ireru kodo deginai wake-
ベンケイの 中に 入れる こと できない わけ

desu-jo. dakara beNke·mo komaru-to ko·ju·ko-
でしょう。 だから ベンケイも 困ると, こういうこ

to-desu-ne.
とですね。

H kuzira-no eqpoN 〔K〕 iqpikizasi.
鯨の 一本…… 一匹刺し

H eqpikizasi-desuka
一匹刺しですか。

U kuzira-no iqpikizasi-to kakete dasubæ.
<鯨の 一匹刺し>と かけて でしょう。

〔N〕 Nda. 〔K〕 naNto togu.
そうだ。 何と 解く。

H are hacirogada-no, are doqci kana. hacirogada-
あれ, 八郎潟の, あれ どっち かな。 八郎潟

no doqci-no ho·desitakana. asoko-dewa mãgu-
の どっちの 方でしたかな。 あそこでは <マグ

ro-no eqpoNjagi to kakete desitane.
ロ(鮪)の 一本焼> と かけて でしたね。

U ha· so·gae.
はぁ, そうかね。

H mãguro-no eqpoNjagi-to kagete usiwakamaru-to
<マグロの 一本焼>と かけて 牛若丸と

tokuka. kore-mo, mãguro-no eqpoNjagi-mo beN-
解くか。 これも, マグロの 一本焼も ベン

ke·wa komaru wage-da.
ケイは 困る わけだ。

N Nda-na.
そうだな。

H ema beNke·-nado oeteru uci-wa naedesjo·ne
今, ベンケイなど おいてる うちは ないでしょうね。

N Nda. toqte nãgedaha. (笑)
そうだ。 とって 投げてしまった!

H are, ko· kãgo-no tokoroe wara-o zuqpai erede…
あれ, こう 籠の ところへ 藁を たくさん いれて……

N Nda, Nda
そだ, そだ。

H sosite ko· sasu-nomo arusi, tãda ko· wara-o
そして, こう 刺すのも あるし, ただ こう 藁を

((N) mãŋedegae) cjoqto marume-danomo aruNzja
(曲げてかね) ちょっと まるめたのも あるのでは

naedesuka.
ないですか。

N Nda. kãŋoko nɯba so·si÷ta.
そだ。 籠が なければ そうした。

R (笑声) Nda.
そうした。

N kãŋoko kauaçute·node (nedemoか) ko· karagaede
籠を 買うのでなくて こう からがいで

……sore-demo keqko· sasaqteru mono.
……それでも うまく 刺されている もの。

〔7〕 男鹿地震の話(その一)

録音日時 1967年2月26日
9月3日 臨地検討
録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉(おがしわきもとおおくら)

話し手

(略号)	(氏 名)	(性別)	(生 年)	(職業)	(居 住 歴)
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	脇本だけ
R	安藤リワ	〃	〃 17年生	〃	〃
H	北条忠雄		(聞き手 編者)		

解説: もう2 9年になるという男鹿地震の話。その時の模様がこまかに具体的にいきいきと語

られている。「吉ノ爺(ヨレ)サマ，オヤッ　婆！地震ダデァトイウシ，ナァンモカモ，ソシテルウヂニ，グワリ　グワリ　グワリ　ド落チテシマッテ，ミデルウチニ　ソゴノ　アノ　オンチョノ家　ツブレルシ，サァコンド，善助ノ家ツブレダ，オレノ家デハ　カタガッテシマッテ　アトハァナァンモカンモナンネェ」まことに見事な活写である。

H　zɨsɨN-wa　ękucu-kuraę-no　toki-desita，　oba:saN.
地震は　いくつくらいの　時でした，　お婆さん。

N　zɨsɨN-gaę.　zɨsɨNa　kodosɨ-de　nizju·sɨcɨneN-da-gaę.
地震かね。　地震は　（今年）ことしで　二十七年だかねえ。

R　kuneN　naru.　kuneN　naru.
(二十)九年に　なる。　九年に　なる。

N　nizju·kuneN-ni　naqtagæha·.
二十九年に　なったかねえ。

R　N·
うん。

N　Ndana.　ano　dogia　mada　hidægaqtadæna.
そうだなあ。　あの　ときは　まだ　ひどかったなあ。

R　ore-no　hora　zɨsama,
オレの，　ほら，　爺(じ)さま

N　nizju·kuneN-ni　naqta
二十九年に　なった？

R　Nda,　nizju·kuneN-ni　naqta.　cjoneN……
そうだ，　二十九年に　なった。　去年……

N　sjeba,　ore-no　sabu　sjeba　nizju·ku-ni　naqtagaę.
すると，　オレの　三(ブ)(郎)，すると，　二十九に　なったかねえ。

R　ododosɨ　ore,　aęda-mono,　nizju·sɨcika(ę)da　mono.
おととし，　オレ，　あれだもの，　二十七回(忌ナラム)だ　もの。

H　zɨsɨN-de　nakunaqta　kata-mo　oqtaN-desu-ka.
地震で　なくなった　方も　おったんですか。

N　ã·N,　sore　sogo-no　soba-no　zjeNnosuke-nonaja
はい，　それ　そこの　側の　善之助のねえ

zɨqcja eN-no-sɨta-ni naqte sɨNdanɛgæ.
爺ッチャ 家の下に なって 死んだもの(直訳<死んだではないか>)

H ha·
はあ。

R ore-no tonari-da.
オレの 隣だ。

N cubureda e·qte naNgeN-mo aqtae. edeni cubure-
つぶれだ 家というと 何軒も ありました。ひどく つぶれ

da e·na.
た 家がねえ。

R Nda. jaqpari ano zɨsɨN-de eno mono-miNna,
そだ。 やっぱり あの 地震で 家の 物みな(つぶれ)

cjo·nosuke-no ko-mo siNdaba, futari-mo saNniN-
長之助の 子も 死んだし, 二人も 三人

mo siNdana.
も 死んだ。

H ecugoro-naN-desu, ano zikoku-wa.
いつごろなんです, あの 時刻は。

N furoedaqtana nizɨgoro-de aqtana.
震えたのは(フル) 二時ごろで あったな。

R Nda-na, orideqte-gara-da mono.
そうだな, (田圃へ)降り(お)ていってからだ もの。

N orideqte-gara-da mono, niN nizɨgoro, gogo-no
降りていってからだ もの, 二時ごろ, 午後の

nizɨ-goro-kara nizɨgoroni, baqcɨri nizɨ-dade·
二時ごろから, 二時ごろに, バッチリ 二時だという

wage-mo nɛ·si, <R a·ja> sore-joka hajæ
わけも ないし そうだ それよりか 早い

wage-de nɛ·domo, ora, ……wagaranɛdomo maNcu
わけでも ないけれど, オラァ(俺) はっきりしないけれど, まず

nizɨ-goro daqtana.
二時ごろ だったな。

H oba:saN-nado taNbo-ni oraretaNdesuka, ñiNzi-
おばあさんなど 田圃に おられたんですか, 二時

goro.
ごろ。

N are, sore, taNbo-sa ta· uçɨ-ni ẹqte aqtana,
アレ, ソレ, 田圃へ 田を 打ちに 行って あったな,

adari-no moN-daba.
近所の 人たちは。

R Nda.
そうだ。

N sɨ̥ta-domo ore-no musʉme-sjæ ko moqtede aqta
けれど, オレの 娘よ 子 持って いた

mono-na, warasɨ moqteẹde aqta mono-sæ soNde,
ものなあ, ワラシ(童)(赤ん坊) 持っていて あった もの, それで,

H aq, osaN-de,
アッ お産で

N
R ã·
はぁい。

H osaN-de, kodomo-saN mmare-te oqtaN-desu̥ka.
お産で, 子どもさん 生(ウマ)れて おったんですか。

N
R ã·
はぁい。

N sorede sono dogi ẹqsju·kaN-me-de aqta mono-na.
それで, その 時 一週間めで あった ものなぁ。

R Ndagaẹ.
そうかね。

N uN. so· ju· kodo netate, ore-no jẹ-daba hĩdo-
うん。 そう いう ことが なくても, オレの 家なら, ひど

gu ẹdaNde aqta mono-na.
く 傷(いた)んで いた ものな。

R Nda.
そだ。

N modo-no jedaba kore-jori zɯqto oqkigata
もとの　家なら　これより　ずっと　大きかった
（今の家）

mono. soNde mãNçɯ ko· jo· aNbaẹ-ni naqta
もの。　それで　まず　こう　いう　具合に　なった

mono-na. kogo-sa adarine jẹnẹ amadare oçide-
ものな。　ここへ　あだりに　家に　雨垂れが　落ちて
（家のここらあたり，分析的表現）

ru mono-ga mæ-no ho··-sa cɯnomeqte, saNzjagu-mo
る　ものが　前の　方へ　つんのめって，　三尺も

mugo··-sa cɯnomeqte, sono amadare oçide aqta
向こうへ　つのめって，　その　雨垂れが　落ちて　いた

mono-na. sore-dage kadagaqta moNde aqtaNtega-
ものな。　それくらい　傾むいた　ものだから，

nẹ jaqto todasɨta-nɛ-gæ, cjaNto. aNnakotaba
やっと　（娘を）出したもの，　ちゃあんと。　あんなことは，

hoNtonẹ naNtoga sjeba e·Ndaga ade negaqta.
ほんとに，　何と　すれば　いいのか　アテが　なかった。
（目当）

sore, koNdo taẹhigoja-no kɯso kaddmededa
それ，　こんど，　堆肥小屋の　基礎　固めていた

dogo daqta mono-na. 〈R u·N うーん〉 jesɨ-no zɨ-sama
ところ　だった　ものね。　吉（田）の　爺様

kị̊te, soẹ koNdo sjemeN noqtede kede aqta
来て，　それ　こんど　セメン　塗って　呉れて　いた

mono-sjæ, ore koNda noqgi hide noqgi hide-ha
ものねえ，　オレ　こんだ　暑い　日で　暑い　日で

maNma kuqtaba sogo tadededeqte kenega, aNmari
飯　食ったら　そこを　閉てていって　呉れないか，　あまり

nogiaNte ore ma· (ne)hitoneri neraqte so·
暑いから，　オレ　まあ　一寝入　寝るよって　そう

ju·sɨ, a· Ndaga sitara ore tadede ega·naqte
いうし，　うん　そだか，　それなら　オレ　閉てて　行くよって

kogo-sa kæmesɨnãbeko kageru-bari-ni sɨte
ここへ　粥飯鍋　かけるばかりに　して

kono kãŋi-sa kagede, sosite kura-sa kome
この 鉤に かけて, そして 倉へ 米

ẹqpjo· ãŋede tãgade aqtedaba, tagæde mo· hi-
一俵 上げて 持って 歩いていたら, 持って もう 一

togæri ẹgeba ẹ·baride aqta wage-da·na. sono
遍 行けば いいばかりで あった わけだ。 その

dogi, koN·do nani sita mono-na, na·Nto jẹmeni-
時, こんど, なに した ものなあ, なあんと 家前には,

daba, sore jẹsa haẹqtekuru-do omoqtaba, mme-
それ 家へ 入って来ようと 思ったら, 梅

no-gi musjo·ni uŋogu mono-na. so-si·teru uçi-
の木が 無精に 動く ものな。 そしてる うち

ni, josi-no zisama oja baba zisiNdadæqte jusi,
に, 吉の(ヨシ) 爺さま(ジ) 「おや 婆(ババ), 地震だ」と いうし,

naNmo kaNmo, so·siteru uçi-ni, gwari gwari
なにも かも, そうしてる うちに, グワリ グワリ

gwari gwari oçide simaqte, mideru uçi-ni
グワリ グワリ 落ちて しまって, 見ている うちに,

sogo-no ano oNcjo-no jẹ cubureda, sa· koNdo
そこの あの オンチョの(屋号) 家 つぶれた, さあ こんど

zeNnosuke-no jẹ cubureda. ore-no jedeba
善之助の 家 つぶれた。 オレの 家は

kadagaqte simate ado-ha naNmo kaNmo naNnɛ.
傾むいて しまって あともう どうも こうも ならない。

〔8〕 男鹿地震の話（その二）

録音日時　1967年2月26日
（同年 9月3日　臨地検討）
録音場所　秋田県男鹿市脇本大倉（おがしわきもとおおくら）

話し手

（略号）	（氏　名）	（性別）	（生　年）	（職業）	（居　住　歴）
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	脇本だけ
R	安藤リワ	〃	〃 17年生	〃	〃
H	北条忠雄	（聞き手　編者）			

解説：〔7〕につづくもの。テープの都合で一連続のものを〔7〕と〔8〕とにわけた。産後一週間目赤ん坊を抱いて寝床にいた娘さんを下ダシた母親（今の老婆）の愛情が胸を打つ。＜デハテ（外に出て）死ヌヨリ寝床デ死ンダホーエガッタ＞外に出てもなおあぶなかった激震を語る言葉である。最後の結び，ホントネ（に）アングラ オッカネァメニ アウコトモ アルモンダネェガ。トダスは＜出す＞こと。＜取り出す＞から。ダスはこの地帯で共通語のヤル（与える）意味に用いているので，ダスは下ダスという。秋田一般はクレルもヤルもともに＜ケル＞である。

N aNde aqgu-mo naNmo naranækute, je-sa haeqte
歩いても うまく どうも 歩けなくて, 家へ 入って

kuro-do omoqtaba, mododaba kue Nna niwa-no
来ようと 思ったら, 以前は 杭は みんな ニワ（土間）の

haru-sa ãŋede edaqta mono-na <R NdaNda>
梁へ 上げて おいたものなあ そうだ

tara-do. tara sĩzju-mo gõzju-mo aNde ãŋe-de
俵と（いっしょに）。 俵 四十も 五十も 編んで あげて

aqta acu-mo maroqkiri oci-te simate, je-sa
あった のも すっかり 落ちて しまって, 家の中へ

haqte koraene-mono-na. <R uN.> na·sini haqte
入って こられないものな。 うん。 「なにしに 入って

eguqte, ema je cubururu dogo-da, haqte egu-
いくってえ, 今 家 つぶれる ところだ, 入って 行く

naqte. oja, oçi-jo nededa mono naNto-si-te
な」ってえ。「おや, お千代が 寝ている もの, なんとして,

sore-daba eganebanaNneqte sogo-gara haqte
それは 行かなければならない」と いって 入って

kuru-taqte korarene mono-na. <R uN.> so· ju·
くるといっても こられない ものなあ。 <うん。> そう いう

moNdadate koNdo koqci-no ho·-no amado-gara
もんでも こんど こっちの 方の 雨戸から

koNdo soe amado-mo koNda ko· naqta-ba agara-
こんど それ 雨戸も こんどは こう なったら 開か

næbæ. <R uN.> sore-de koNdo jabusi-te sosi-te
ないだろ。 <うん。> それで こんど 破って そして

nedogo-sa eqte fuqpaqte ki-ta moNda. sono ko
寝床へ 行って ひっぱって 来た もんだ。 その 子

hitori dagasjede koNdo, sono cjaNto, koNda
ひとり 抱かせて こんど その ちゃあんと, こんどは

sora naNboga naqta moNdabeka, modo-daba ni~-
それ どれほどに なった もんだろか, もとなら 二

zjueçi-niçi dogasanɛ moNde aqta mono-na.
十一日(間) (寝床を)退かさない もんで あった ものなあ。

<R uN.> koNdo naNtomo naranɛsi-, soe to~dasi-
<うん。> こんどは どうも ならないし, それを 出し

te kitaba kogo-no oga-no mama mada emadaba
て 来たら, ここの 岡の崖(ガケ)が また 今なら

ko· hiroe-domo sono mama zɯ·qto koNda ku~zurede
こう 広いけれど その ガケが ずーっと こんどは 崩れて

ki-ta moNda. beNzjo-do je-do koNdo ko· cɯgu-
来た もんだ。 便所と 家と こんど こう くっつく

dage u~Nŋoguacɯha. naNto kaNtomo, ore sjeba
くらいに 動くのだよ。 なんとも かんとも, 「オレ すると

dehate kite si-nu-aNdagæqte ju· mono-na.
出て 来て 死ぬのだか」と いう ものな。

〈R. uN.〉 dehate kite sinu-aNdaba nedogo-ni
〈 うん。〉 「出て 来て 死ぬのなら 寝床に

ede siNda ho egaqta-dæqte so ju·si, sitadomo
いて 死んだ 方が よかったよ」と そう いうし, だが,

mãNçɯ mãNçɯ dogo-sa cɯrede egeba e·N-dero-to
まず まず どこへ 連れて 行けば よかろうかと

eqtakjæ maNcɯ ma· koNçɯkæ-no kiso-no naga
言ったら, まず まあ 肥塚の 基礎の 中

kadamaqteraNtegani kogo-sa cɯre-de koe(qte)…
固まっているから ここへ つれて 来い(って)……

so·site koNdo sono soqkara koNda noN noN
そうして こんど その そこから こんどは グン グン

noN-do hasjede aqte tara go-hjo-mo saN-bjo-mo
グンと 走って 歩いて 俵 五俵も 三俵も

mãNçɯ hagoN-de sjeba side nemarasjede side
まず 運んで, すると (それを)敷いて 坐らせ敷いて

nemarasjedataqte mãda harusagi-de sãbisi,
坐らせたっても まだ 春先のことで 寒いし,

futoN-mo nɛba naNmo nɛkute, ma·da, soe sono
蒲団も 無いし 何も 無くて また それ その

ogu-no ho·gara koNdo jesa eqte nemagi moqte
奥の 方から こんど 家へ 行って 寝巻 持って

kite sosite koNdo sogosa futoN tãŋadeqte-na
来て そして こんど そこへ 蒲団 持って行ってな

〈R. uN.〉 hitobaNŋe koNda sogo-sa ko dagi;
〈 うん。〉 一晩(ヒト)げ こんどは そこへ 子 抱き,

Nde simi-no eNda açu kaqtaaçu sodo-no hija-
そして 炭の 様な もの 買ったのを 外の 廂

si-sa ãŋede aqta açɯ sore Nna magurede kita-
へ あげて あったの それが みな ころげて 来た

si, ore tãŋade aqta kome jesa moqte konede
し, オレ 持って 歩いた 米 家へ 持って 来ないで

sodo-ni arusɨ, hore, koNda koqcɨgara moqte
外に あるし, それ, こんどは こっちから 持って

(ɐta) kɛmesɨnãbe jaqtoga tãŋade kite sɨcɨre-
(いった) 粥飯鍋 やっと 持って 来て 七輪

N-do taŋade kite soɐte koNdo sodo aqkoneɐ ede
と 持って 来て そして こんど 外, あそこに いて

maNma taɐda wage-ja. <R NdagaR> sosɨte
飯 炊いた わけよ。 そうか そして

koNdo kæmesɨ nide maNma kwasjede soɐ mo· ha…
こんど 粥飯 煮て ごはんを 食わせて, それ もう ハア

maçɯri cɨkagumo narusɨ, 不分明……na. <R uN>
祭 近くも なるし, ……なあ。 うん。

tonari-noɹ jɐgara moraqtari sɨta açɯ sosɨte
隣の 家から 貰ったり した の, そして

jade oɐde aqtaaçɯ jaçɯ, koNdo ma· ma· ha·
焼いて 置いて あったの, こんど まあ まあ ハア

naniga nusɯNdo midæni sɨte koqcɨgara mawaqte
まるで何か 盗人 みたいに して こっちから 廻って

ete koNdo todana-gara tãŋaNte aqte niːde
行って, こんど 戸棚から 持って 歩いて 煮て

maNma sosɨte koNdo maNma kwasjede, hɨtobaNŋe
ごはん そして こんど ごはんを 食わせて, 一晩(ヒト)げ

soni ede sono naNda ẽNdo nĩŋorogaqte ɐrutata-
そこに いて, その なんだ, 井戸が 濁って いても,

te ẽNdogara mãNçɯ ma· mĩNzɯ kuNde maNma ta·-
井戸から まず まあ 水を 汲(ク)んで ごはん 炊

de jagimesi-nĩkite, maNma tade jagimesi-nĩki-
いて 焼飯を握って ごはん 炊いて 焼飯握って,

te, cɨqcjæ nãbeko-daNdamono-na. <R uN>
小さい 鍋コなのだものなあ。 うん。

sɨte, soɐ koNdo Nna saNto naNto sɨtaqte
そして, それ, こんど みんな(皆) 産人(サント)(なんだから) なんと したって

muraçju·-no mono kurubæ. <R Nta> na·. naNto
村中の 人が くるだろ そうだ なあ。 「どう

sɨta, naNto sɨtaqte sono naNno kuru mono.
した, どう した」といって その なんの, くる もの。

sjõNbo-gada-gara mura-no hitogada Nna saNto
消防がたから 村の 人たち みんな 産人

naNto sɨtate kite kerusɨ, sore mãçu saNto-mo
何と したって 来て 呉れるし, それ, まず 産人も

naNmo e·aNte jagimesɨ keqte. naNçju:-gæri
何も いい(無事だ)から 焼飯 食えっというわけだ。何十遍(となく)

joqta moNda <R Nda.> nãN:çjugæri-demo joru
揺った もんだ。 そうだ。 何十遍でも 揺る

moNda monona <R na·Nto sɨte.> Nde sjeba ae
もんだ ものなあ。 なあんと して。 それで, すると, あれ

he·ba hitobaNŋe-ni saNçju·naNbo-gæri-daba joqta-
すると, 一晩げに 三十何遍は 揺った

takena <R N·>
けなあ。 んー。

hoNtone aNdara oqkanæmeni aukodo-mo arumoN-
ほんとうに あんな 恐ろしい目に あうことも あるもん

danɛga.
ではないかね。

【9】お 昼 の 対 話

録音日時 1967年2月26日
録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉(おがしわきもとおおくら)

話し手

(略号)	(氏 名)	(性別)	(生 年)	(職業)	(居 住 歴)
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	脇本だけ
U	吉田運蔵	男	〃 16年生	〃	〃
K	菊地正信		(聞き手 高校教諭)		
H	北条忠雄		(聞き手 編 者)		

解説：録音中にお昼になり，昼食のご馳走にあずかった。

これは，その昼食中のなまの対話である。実はこの対話録音を特に注目したのは，話中に出る＜zɨNŋisɨteranaNdera＞という語句－表現が見えるからである。秋田のよそなら普通＜zɨNŋisiteranãdabɛ＞＜zɨNŋisɨteranãdasʉbɛ＞などなるところ。

N gohaN nobede
ご飯(はん)を　だして（ください）

K ija takusaN ado korede zju·buN-desu
いや，　たくさん。　もう　これで　十分です。

U juqkuri agaqte
ゆっくり　上って（ください）。

N sjeNsje sore zɨNŋi sɨterujodanaNdera
先生！　それ　遠慮　しているのでしょう。

K eq ↗
えっ ↗

N zɨNŋi sɨterujodanaNdera
遠慮　しているのだろうてえ。

K zɨNŋi sɨtera ↗ naNte imidesuka
ジンギ　シテラ ↗　何という　意味ですか。

N eNrjo-sɨteru-de ju: kodo
遠慮してると　いう　こと。

K naNno eNrjo-site nai zju·buN onaga iqpæda.
何の　遠慮して　ない。　十分。　おなか　いっぱい。

seNse· ano zɨNŋɨ-siteraqte eNrjositeruqte ju·-
先生　あの　ジンギシテルって　遠慮してること　いい

suka. so· ju·subɛga.
ますか。　そう　いうでしょうか。

H e· e: ju·desune.
え　えー　言いますね。

K ora hãzimede kida kore
オラァ　はじめて　聞いた，　これ。

N agireda moNdane.
あきれた　もんだねえ。

【10】 おじいさんとおばあさんの喉(のど)コ

録音日時　1967年2月26日
録音場所　秋田県男鹿市脇本大倉(おがしわきもとおおくら)

話し手

(略号)	(氏　名)	(性別)	(生　年)	(職業)	(居　住　歴)
U	吉田運蔵	男	明治16年生	農業	脇本だけ
N	吉田ナツ	女	〃 22年生	〃	〃

解説：おじいさんの唄は<脇本は火事で二度焼けたが三度焼けたらそれこそどうにもならぬ>という趣旨だが，どういう時謡うのか聞きもらした。お婆さんのは，臼引歌のよし。じいさんのも或はそんな時のものか。

(イ) おじいさんの唄

U wagimodo-wa naN-no baçu-jara nĩdo jageda.
脇本は　何の　罰やら　二度　焼けた。

saNdo jageda, saNdo jagedara nodadzʉne-dja.
三度　焼けた，　三度　焼けたら　容易でない。

a: jagedara saNdo jagedara nodadzʉne-dja.
あー　焼けたら　三度　焼けたら　たいへんだ。

ja:do na:
ヤート　ナァー

(ロ) おばあさんの唄

N sãbukãze-no goriNnãŋane-no: (tona) ẹdosusugi
寒風の　五輪長峯の　(とな)　糸薄(ススキ)

edosusugi ũma-ni cʉkedemo jura jura-do:
糸すすき　馬に　付けても　ゆら　ゆらと

(cũzugane aNda) masaga cɯke-demo jura jura-do
(つづかないのだ) 馬に つけても ゆら ゆらと
—自分の声のこと—
ja:ʦo na: koju· uda·da.
ヤート ナァー こういう 歌だ。

【11】 餅のかぞえ歌

録音日時 1967年2月26日
録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉(おがしわきもとおおくら)

話し手

(略号)	(氏 名)	(性別)	(生 年)	(職業)	(居 住 歴)
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	脇本だけ

解説：
1. フトツーフグダモチ
2. フタツーナリダ·モチ
3. ミッツーミソツケータンポモチ
4. ヨッツーアンヅキモチ
5. イツツークスリモチ
6. ムッツーミヤゲモチ
7. ナナツージョーニモチ
8. ヤッツーカザリモチ
9. ココノツーオガノモチ
10. トオーセンキモチ

どうもモチゴメをついた，本物のモチでないのもありそうだ。以上このままでは続かないのもあるが，それはここては橋わたしのことばを省いたから。例えば，フタツ フウフノ ナリダモチというように。

N futoʨɯ fugur-eda fuguda-moʨi. futaqcɯ fu·fu-no
一つ 膨(フク)れた ふくだ餅 二っつ 夫婦の

narida-moʨi. miqcɯ miso-cɯke taNpo-moʨidaẹ.
なりた餅 三っつ 味噌付け たんぽ餅(だよ)

jõqcɯ jõɰore-da ãdzɯgimoʨi. ẹʨɯʨɯ ẹsjãdo-no
四っつ 汚(ヨゴ)れだ 小豆餅 五つ 医者殿の

kusɯrimoʨi muqcɯ musɯme-no mijãɰe-moʨi.
くすり餅 六っつ 娘の みやげ餅

nanaʨɯ nanakusa zjo·nimoʨi. jaqcɯ jasɯgi-no
七つ 七草 雑煮餅 八つ 屋敷の

kãzari-moʨi. kogonoʨɯ konojeno oganomoʨi.
飾り餅 九つ この家の おがの餅

to·-ni tosorino seNkimoçɨ, nãda.
十に 年寄りの せんき餅, なんだ。

【12】 若い時の話 ちょっぴり
―夫婦仲よくかせいだこと―

録音日時 1967年2月26日
録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉（おがしわきもとおおくら）

話し手

(略号)	(氏 名)	(性別)	(生 年)	(職業)	(居 住 歴)
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	脇本だけ

解説：題名の如くしかり。
しかし，ちょっと。田へも山へも＜働きにゆく＞のをすべてオリルと言い，帰宅－仕事から帰ることをアガルということ，この短い中にあらわれている。

N ore-daba jama-sa oride ẹguqte jueba, jẹ-no
俺は 山へ おりて いくと いえば, 家の

naga kadaçʉke-de, soqte to tade-de to sɨme-de
中を かたつけて そして 戸を たてて 戸を 締めて

ẹqte, jẹ-sa kite maNma-no sɨtagu sɨte kuta
いって 家へ 来て 飯の 支度を して 食った

moNda-mono, wakæ uçɨ-na. sjeba, ore-no dzɨqcja
ものだもの, 若い うちは。 すると, うちの 爺は

mada agaqte-gara koNdo tamawari guruqto sɨte
また (田から)上ってから 今度 田廻り グルッと して

sosɨte kuru-aNda mono.
そして くるのだ もの。

K haha· taN tamawari sɨte kuru wage-ne.
ハハァ タン 田廻り して くる わけねえ。

N sosɨte jẹsa kɨte maNma kuaNda-mono-na. sono
そして 家へ 来て 飯 食うのだものなあ。 その

tame-ni doqcɨ-mo ẹsogasɨ açʉ-da mono-na.
ために どちらも いそがしい のだ ものなあ。

【13】 やづのめ
―― 一つの花に実が八つなる梅の話コ ――

録音日時 1967年2月26日
録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉（おがしわきもとおおくら）
吉田運蔵宅

話し手

(略号)	(氏　名)	(性別)	(生　年)	(職業)	(居　住　歴)
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	脇本だけ
R	安藤リワ	〃	〃 17年生	〃	〃
K	菊地正信		(聞き手 高校教諭)		

解説：一つの花で実が八つなる梅―― オラ（俺）食ったこともないし，なってらどごみたこともないがたしかにあると信じている話。話し手のアルデゲァ（←アルドガエ〔arudogaẹ〕）に対して聞手が<アルデショウ>と理解したのに，<アルド，ハッキリアルアンダ>と力を張って言っているのがコトバの上でおもしろい。ガエに対する聞手の誤解である。

N sore-gara sogo-no sado-saN-no jẹ-ni-mo ũmebaja-
それから そこの 佐藤さんの 家にも 梅林

sɨ aqtasʉna. ẹma-demo kasɨmasamaqte ẹwagurano
ありましたね。 今でも 鹿島様ってえ 岩倉の

hazɨzɨrosama-sa ẹge-ba kasɨmasama-no hõ sobasa
八次郎様へ 行けば 鹿島様の 側に

ẹgeba jaçʉnomeqte arudegaẹ, oredaba ẹqte mida
行けば ヤツノメって あるとよ， オレなら 行って みた

kodo-mo nɛdomo. hana futoçʉsa jaqcʉ narudo.
ことも ないけれど， 花 一つに 八つ なると。

K j a-c u-f u-s a-n o-m e q t e n e
ヤーツーフーサーノーメってね。

N Nda. jaçɯ-no-me, sore-daba umeçɯke-ni cugedemo
そうだ。 ヤツノメ, それは 梅漬に 漬けても

kawari nɛqte-aN ta.
変りは ないとだと。

R hoNda-ja.
そうだよ。

K jacɯnomeqte oisiɛ moNdesjo·ne. Nmæ moN-dasu-
ヤツノメって おいしい もんでしょうね。 うまい もんでしょう

bɛna.
なあ。

N naNtoga naNdaga, ora kuqde mida kodo-mo nɛ·siɦ
どういうものか, 俺 食って みた ことも ないし,

不分明
naqtera dogo mida kodo-mo nɛ. ……-no hõbano.
なっている ところを みた ことも ない。 の そばの

kasɨmasama-no hõNba-no jacɯnomeqte ju· ki
鹿島様の そばの ヤツノメって いう 木

eqpo do, mugasɨ-gara-no ki.
一本 と, 昔からの 木。

R ……….

N ……aɛ, mãçɯ kasɨmasama-no ki. o:mugasɨ-gara
……あい, まず 鹿島様の 木。 大昔から

aruaNtagaɛ, jacɯfusanoũme-daqte ju· mono.
あるのだよ, ヤツフサノウメだと いう もの。

sono ũme aru-aNda.
その 梅 あるのだ。

K araNcjagɛqte ju· fu·ni ko· ju·N-desu-ne, aru-
アランチャゲェって いう ふうに こう いうんですねえ, ある

desjo·neqtene.
でしょうねえっていうことね。

N a r u-d o . h a q k i r i a r u a N d a .
あると。 はっきり あるのだ。

K N d a s ɯ n a . a r a N c j a g e q t e t o-j u-b a e-d a b a a r u d e-
そうですねえ。 アランチャゲェという場合は, <あるで

s j o ·-d a s b æ .
しょう>でしょう。

R h o N d a .
そうだ。

K a r u d a r o ·q t e-n e , j u · i m i-n e , a r u d o q t e b a h a q k i r i
あるだろうってね, いう 意味ね, <あると>っていえば はっきり

a r u w a g e-d a .
ある わけだ。

N h a q k i r i a r u-a N d a .
はっきり あるのだ。

【14】繁次郎の話

録音日時 1967年2月26日
録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉
吉田運蔵氏宅

話し手

(略号)	(氏 名)	(性別)	(生 年)	(職業)	(居 住 歴)
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	脇本だけ

解説：大分のキッチョムみたいなものがどこにもある。いわば日本の伊曾保氏である。ここに四つ話してあるがあまりたいしたものではない。
① 鰊(カド)は川に ② 紅餅(ベニモチ) ③ 山さ行ってマギきり ④ 若勢(ワカゼ)ぶり

① 鰊(カド)は川に

N s i N ɒ e z i r o , s i N ɒ e z i r o , b a b a-d o f u t a r i ẹ d e a q-
繁次郎, 繁次郎, 婆と 二人で いて あっ

tadogæ. musasɨno sĩNŋeziro-no baba-na na·N-
たとよ。 武蔵の 繁次郎の 婆なあ なぁん

to karate jaNde-sjæ janedeba motekurusɨ,
と からだ{は 痛むし / を 病んでそれに} 屋根てえば 漏ってくるし

ma· hjaqkiguromi-ni naqte mesɨ-mo naNmo
まあ 借金ぐるみに なって 飯も なにも

kwaẹne wage, maẹniçɨ nederujorɨ-mo hoga na-
食われない わけ, 毎日 寝ているより ほか な

gute-na. sosɨte ame-wa furusɨ-sjæ, niwa-mo
くてなあ。 そして 雨は 降るし, 庭も

naNmo kawa-ni naqte sɨmata wage-da. sɨtaba,
何もみな 川に なって しまった わけだ。 したら

sĩŋeziro, na·Nte madaja niwa-mo naNmo kawa-ni
繁次郎 なあんて また 庭も 何も 川に

naqtane. kore-demo sjeba asɯNderugæqte, baba
なったなあ。 これでも, すると, 遊んでいるのかと 婆,

sore kudoẹda-do, eçiniçi. cjame zjori doNto
それ, 口説(クド)いたと, 一日。 チャメ ジョリ ドンと

nãŋe-de, sora baNba kãdo ojõNde kɨta cɯkamere
投げて そら 婆 鯨(にしん) 泳いで 来た, 摑(つか)め,

kãdo ojõNde kɨta. na· kawa-da mono kãdo ojõ-
鯨 泳いで 来た。 なあ, 川だ もの, 鯨 泳

Nde koneba naNnɛ-na. so· ju· moN-da wage-sjæ.
いで 来なければ ならないなあ。 (万事)そうした わけだ。

② 紅餅(ベニモチ)

N tonari-no mono mire, asaq-kara baNŋe-made
隣の 者 見ろ, 朝から 晩まで

(hosɨte-ẹru NŋaNne
moçɨ cɯde, a·ja sɨte kaNmoçɨ hosɨ-te, ẹruNŋa-
餅を ついて あのように して 寒餅 乾(ほ)して, いる貴様

oẹdeトナルトコロ)
nẹ oẹde moçɨko hitoçɯ kwasjerene-de naNdaqte,
に おいては 餅コ 一つ 食わせられないで なんだってえ,

so· ęqta wage-da.
そう 言った わけだ。

sɨta-ba, ę· ę· asama-ni zuqpari cɯde kwasjeru.
そしたら, えぇ えぇ 朝に いっぱい ついて 食わせる。

sjogubeni kaqte ke, fũdeko-do. baba-nę sjo-
食紅 買って こい, 筆ッコと。 婆に 食

gubeN-do fũde ęqpo kawasje-da wage-da. sosɨ-
紅と 筆 一本と 買わせた わけだ。 そし

te, koNdo togasɨ-te koNdo a· jo· futobaNde-
て, こんど (食紅を)融かして こんど アァ ヨォ 一晩(ヒトバン)げ

no ucɨ-ni koNdo hosɨteaqta koNdo N·na sjogu-
の うちに こんど 乾してあった こんど みんな 食

beNko cɯge-de jaqta wage-da, uN, uN, sono
紅コ つけて やった わけだ。 うん うん, その

tonari-no taęra-no <R uN> -sjæ moçɨqko-sa.
となりの 平の(タイラ) うん 餅ッコに

ŋa·Nto asama-ni ogitaba-sjæ mamaNde-sjæ cɨ-
なぁんと 朝また 起きたら さながら 血

cɯdamidæ-ni naqteru wage-da, agagu naqte-na
が付いたみたいに なってる わけだ, 赤く なってなあ

<R hoNda·> na·Nto ore-no moçɨ-sa osorosɨnɛ
そうだ。 なぁんと オレの 餅に おそろしい

mono cɯdedaqte mini ęgeba N·na maqka-ni naq-
もの ついてだって 見に 行くと, みんな 真赤に なっ

teru wage-da. naNno tonaN-no karapojami-sa
てる わけだ。 何の, 隣の カラポヤミに(怠け者)

dasɨte jareqte wage-de nasɨte kwaęru moN-
呉れて やれって わけで, なんで 食われる もの

daqte tonari-no karatejami-sa moqte ęgeqte,
かとて 隣の 怠け者に 持って 行って

nãNto ęçɨniçɨ-ni naNdo-mo cɯda moçɨ naNda-ga,
なぁんと 一日に 何度も ついた 餅 なのだが,

futari-mo saNniN-mo site cuda moci, deroqto
二人も 三人も して ついた 餅, デロリと

moraqte hitofuju agi-sita-dona. (笑)
貰って 一冬 (食って)厭き厭きしたとさ。

③ 山さ行ってマギきり

N soregara koNdo-sjæ ma· sĩŋezĩro ko·site-daqte
それから こんど 繁次郎 こうしていても

jazjaganæNteganę jadode ę· hito jadowasje-de.
だめだから 雇って いい 人 雇わせて

jaqta-do. sitaba koNdo, sĩŋezĩro, cjo magi-
やったと。 したら こんど 繁次郎, 今日 薪切

kiri-da-dæ. jama-sa ęqte magi hora, jogama-wa
りだよ 山へ 行って 薪, ほら, 四釜は

taganæna Nteganę, kiqtekoęqte. jo·si-do (o)mo-
焚かねばならぬから 切って来いってえ。 よーしと 思

te ęta wage-sjæ. sita-ba koNdo, futa-gama
って いた わけよ。 したら, こんど, 二釜

kiqte koNdo-sjæ o·furi-kesi-te nededa wage-da,
切って こんど 大きな顔(グラ)して 寝ていた わけだ,

jama-naga-de-na. sogode koNdo, ęqte midaba-sjæ
山中(ヤマナカ)でな。 そこで, こんど, 行って みたら,

futagama-jori kiqte nε wage-da. sĩŋezĩro,
二釜しか 切って ない わけだ。 繁次郎?

kore sjeba naNdaqte futa-gama kiqtesjeba
これ, すると, 何だって 二釜 切って

nεde, jo·-gama kiru hãzuni site-sjæ ędanega-
寝で! 四釜 切る 筈に して いたではないか

do, nani saberuqtega. koqci-no kãŋe-no ho·sa
と。 なに しゃべるのか。 こっちの 蔭の 方へ

kite mire-dæ. koqci-no ho·no kata-kogoci sjeba
来て みろ。 こっちの 方の 片木口, すると,

kiqta-aNdaqte na, koqc+ mide futa-gama areba,
切ったのだよ なあ, こっち みて 二釜 あれば,

koqc+-no ho· mide-mo futa-gama areba, jo·gama-
こっちの 方 みても 二釜 あれば 四釜

daaqtado. sjebaNda kaNzjo-dadomona. kada-
なのだと。 そういえばなるほど そういう勘定だものなあ。 片

kogoc+ dare kiqta-aNda, ore kiqta-aNda, sje-
木口 誰 切ったのだ, オレが 切ったのだ, する

ba sore jogama-ni naqte si+maqteru wageda.
と, それ 四釜に なって しまってる わけだ。

④ 若勢(わかじえ)ぶり

sore-gara koNdo si~ezi+ro-dogo koNdo wagazje-
それから こんど 繁次郎を 今度 <若い衆>

ni tanomo-ni e̱qta wage-da. e̱gu toqte e̱ma
に 頼みに 行った わけだ。 よく 取って 今

naNbo naNbo-ni tanomae̱negaqtaba e̱· e̱·qte, si+ta-
どれほどに 頼まれないかといったら, いい, いいって, そした

ba-sjæ ore-sjæ naN-demo si+godo-daba suru̱si+-
ら オレは 何でも 仕事は するし,

sjæ wage-da.
わけだ。

sitaba koNdo-sjæ oe̱nojoNda mono-sjæ naNdemo-
したら, こんど オレのような 者, 何でも

sjæ kwaNnoN sama-no hidake-sjæ ore-dogo jasu-
観音様の 日は オレを 休

masjede kereqte. kwaNnoN-samaqtaqte e̱ci+nici+-
ませて くれってえ。 観音様といっても 一日

bari naNne-do omote, ae̱ ae̱ e̱·dæ e̱qtakodone.
だけにしか ならないと 思って アエ アエ いいよ と言ったことよ。

si~ezi+ro nanisuruqteba cjo-wa e̱ci+baN-no kwa-
繁次郎 なにするっていうと, 今日は 一番の 観

NnoN-sama-daqte wage-dana. asɨta-ni nareba
音様だという　わけだな。　明日に　なると

mada-sjæ sɨ̃ŋeziro nanisʉrugɛqteba cjo-wa
また　繁次郎　なにするかというと　今日は

nibaN-no kwaNnoN-sama-da, asaqte-ni nareba
二番の　観音様だ,　明後日に　なると

cjo saNbaNno kwaNnoN-sama-daqte wage-da.
今日　三番の　観音様だという　わけだ。

koNdo-sjæ na·Nto taẹ̃zʉ saNbaN aru wage-da,
こんど　なぁんと　絶えず　三番　ある　わけだ,

kwaNnoN-sama-na. sje-ba cʉgi-ni-sjæ saNzju·-
観音様が。　すると,　次に　三十

niçɨ-jori ore jasʉNda oboẹ nɛdo. ado-no miq-
日より　オレ　休んだ　覚えが　ないと。　あとの　三

ka sjeba naNto sɨte kureruaNdado. soẹde
日,　すると,　なんと　して　くれるのだと。　それで

koNdo ado-no miqka-buri-mo mada-sjæ toN-neba
こんど　あとの　三日ぶんも　また　取らねば

naranæaNdadona. jaqpa saNzjusaNbaN-no kaNnoN-
ならないのだとよ。　やっぱり　三十三番の　観音

sama. soẹde koNdo ojagada-mo nã·Nmo mageda-do.
様　それで　こんど　親方も　何もみな　負けたと。

ẹçɨneN-zju nesje-de kwasje-de sosɨte miqkad-
一年中　寝せて　食わせて　そして　三日づ

zʉcʉ-ni sãŋari aru wage-da. soẹde sɨ̃ŋeziro-ni
つに　下がり　ある　わけだ。　それで　繁次郎に

kate totemo awanedona.
かかって　とっても　だれもだめだと。

【15】 昔　　話

録音日時　1967年2月26日
録音場所　秋田県男鹿市脇本大倉（おがしわきもとおおくら）
　　吉田運蔵氏宅

話し手

（略号）	（氏　名）	（性別）	（生　年）	（職業）	（居　住　歴）
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	脇本だけ
U	吉田運蔵	男	〃 16年生	〃	〃　（聞き手）
S	吉田家主婦	女	40才くらい		〃　（〃）
K	菊地正信	男		高校教諭	

① 松かさ三升で炊事 —— 嫁の資格試験 ——

解説：マツカサ（松毬）は方言で〔madz-ɯ f-ɯɲri〕マヅフングリ だがここでは共通語のマツカサでみえる。ムガシはオナゴがヨケエ居たタメニ ナンダラ嫁デモ選ブコトガデキタではじまる。ここではその嫁の能力試験で，マツカサ三升を与えてゴハンを炊かせ，オツケ（お汁）をつくらせ，そしてユコ（湯）までわかさせようとするのである。三升くらいでマンマ オツケから湯コまでとは大変と一つづつ——最後までマツカサがあるようにと——くべてゆくのが中以下の頭脳の持主，マンマが煮えないうちにすでにマツカサがなくなってしまう。嫁入り資格十分と判定される上脳は果して如何なる方法を以て処置したか。

N　mugas+banas+　kadaro·ga.
　昔話　　語ろうか。

aru　mugas+　nę-da　wage-sjæ.　hjtori-musɯko
ある　昔に，　という　わけよ。　ひとり息子が

jome　morau-nę-da　wagesja-na.　na·Nto　modo-daba
嫁を　貰うことに，　というわけよなぁ。　なぁんと　昔は

ęma-jori-sjæ　onãɲo　joge·　ęda　tameni　naNdara
今より　女が　たくさん　いた　ために　どんな

jome-demo　ęraN-de　morau-ni　ęgata　wage-da,
（いい）嫁でも　選んで　もらう{に／ことが}　{よかった／できた}　わけだ。

Nde-sjæ　oreno　ę·sa　kuru　jome-sjæ　madzɯkasa
それで，　俺の　家へ　来る　嫁よ，　まつかさ（松毬）

saNzjo-ni mama-do odzɯge-do juko-do, so·
三升で 飯と お汁と お湯と そう

tagu-en-da-sjæ jome-de neba morawa-ne-do.
たくような 嫁で なければ もらわないと,

soe-de koNdo tadekaNbaN sa̰ge-da wage-da.
それで 今度 立看板を 下げた わけだ。

so·ju-koqte, koNda-sjæ, ore-midæna monozɯgi-da
そういうことで, 今度, オレ(俺)みたいな 物好きな

moNde aqta-be-sja, sore-daba ore ęguqte kj-ta
もので あったんだろう, それなら オレ 行くといって 来た

wage-da. ma̰Nzɯ-sjæ kaNbaN-ni joqte kj ta-do.
わけだ。 まず 看板に よって 来たと(いう)。

s+tara-sjæ, s+keN-s+-te mireqte, madzɯkasa
それなら 試験して みろっというわけで 松かさを

saNzjo a̰zɯge-de-sjæ maNma taga-sje-de odzɯge
三升 預けて(与えて), 飯を 炊かせて お汁を

nira-sje-de so·s+-te-sjæ juqko-mo wagasɯ-aNda
煮させて そうして お湯も わかすという

wage-da-na. sore degire-ba-sjæ, ma̰Ndzɯ jo-me-
わけだな。 それが できれば, まず 嫁

qko-ni moraude kodoni naqta wage-da. so̰de
に もらうという ことに なった わけだ。 それで

koNdo ma· ta-ga-sje-da-ba, ma̰Ndzu saęsjo-ni
今度 まあ たかせたら, まず 最初に

futaqcɯ miqcɯ futaqcɯ miqcɯqte ma̰Ndzɯ-sjæ
二つ 三つ 二つ 三つといって まず

kɯ̰be-de jaq-ta-ba-sjæ saNzjo-no jadzɯ-ni-sjæ
くべて やったら 三升の もの(松かさ)で

maNma jaqtoga-jori nidada-ne wage-da. so̰Nde
飯が やっとがより(やっとしか) 煮立(にだ)たない わけだ。 それで,

ma̰Ndzɯ sore ragudaę-de aqta-do-gaę. Nde, ni-
まず それ 落第で あったとよ。 それで, 二

baNme-ni-sjæ kɻta hɻto-sjæ ore sɨtarasjæ
番目に 来た 人よ オレが それなら

jaqte miruqte mada kɻta hɻto ɐda wage-da.
やって みようといって 又 来た 人 い(居)た わけだ。

sɨtadomo mada madzɯkasa saNzjo ãzɯge-de-sjæ
だが, また 松かさを 三升 預けて

sono maNma taga-sje-de mida wage-sjæ. sogode
その 飯を たかせて みた わけよ。 そこで,

sono hitoqcɯ-dzɯcɯ-sjæ kũbe-da-wage-da. hɻtoqcɯ-
その 一つづつ(ひとつ) くべたわけだ。 一つ

dzɯcɯ kũbe-dara kondo-sjæ ore ha go·kagu
づつ くべたら 今度 オレは もう 合格

sɯNmoN-dado omoqte-sjæ hitoqcɯ-dzucɯ kũbe-da
するもんだと 思って 一つづつ くべた

wage-da. sogode sore-mo madasjæ maNma nida-
わけだ。 そこで それも また 飯が 煮立

da-ne-de ha nɛ·sɨte simaqta wage-sjæ. naNto
たないで (松かさを)なくして しまった わけよ。 なぁんと

sitaqte jazjagaNɛ, mada sore-mo ragudaɐ-da
しても 駄目だ, また それも 落第という

wage-da. sore-gara-sjæ ɐ·kageNda haneg̃æri
わけだ。 それから いい加減な 跳ね返り(おてんば)娘が

mada kida wage-sjæ. ore sɨtara jaqte miruq-
また 来た わけよ。 オレ, それなら やって みようと

te sɨtara mada madzɯkasa saNzjo ãNdzɯge-de-
いって, そしたら また 松かさを 三升 預け

sjæ sɨkeN sasjeda wage-da. naNno kodonɛ,
て 試験を させた わけだ。 なんの ことない,

ɐginari boqkori sanzjo kũbe-de soreni hi
いきなり ボッコリと 三升 くべて, それに 火を

cɯke-da wage-da. do·do-do nidaqte sɨmata
つけた わけだ。 ドォードと 煮立って しまった

wagesjæ, saNzjo−no ma·, hitokũbe−de. koNdo
わけよ, その三升の 松かさが, その一(ひと)くべで。 今度

nĩbaNme−ni kono kiwa−sa ko·sæ hanedeqtajadzɯ
二番目に この(手真似) 際(きわ)へ このように(手真似) 跳(は)ねていったやつ

koNda ãdzɯbe−de, sosɨtaba−sjæ odzɯgeqko ni−
(松かさ)をこんど 集めて, そしたら お汁が 煮

daqta wage−da. odzɯgeqko nidaq−ta−ba jaqto
立った わけだ。 お汁が 煮立ったら ヤッと(威勢よく)

orosɨ−te, sono ogiqko−sa−sjæ cjãŋamako cjɨq−
おろして, その オキ(燠)へ 茶釜を おしつ

cɯke−da wage−da. sore−de maNzjogu sɨta−dona.
けた わけだ。 それで 満足 したということだ。

Nte, aNmari ke−cɨjaru−mo mada ẹ· kododе
それで, あんまり ケチ(吝嗇)するのも また いい ことでは

nɛ·aN−da wageda. sogo−sjæ adama−no moNdaẹ−
ないという わけだ。 そこはよ 頭の 問題

de−na·. soẹ−de, sono hi̯to maNdzɯ sogo−no
でな。 それで, その 人(娘) まず そこの

ẹ·sa jomeko−ni naqte osamaqta−do−jona hana−
家へ 嫁に なって おさまったという 話

sɨ−da. sore−de toqpiNparari……。
だ de…. それで トッピンパラリ……。
で……

② ＜やぐわん＞と＜めくされ＞それに＜じらみたがり＞の話

解説：ちょっと上品めいた話ではないが，昔話の世界なら＜めくされ＞＜しらみたがり＞などありふれたことでどこにもみられたし，自分たちにもあったもの。但し＜やぐわん＞だけは古今・東西を通じて遍在する。この三人がナンボカユイ（痒）タッテ カガネッコ，ナンボ涙デタタテ コシネッコ をしようと約束する。コシネコはコスラネコである。ヤグワンとシラミタガリはかゆくて死ぬほど，めくされはメクソと涙でこれもそれほど，さて三人この難関をいかに切りぬけたかというのがこの昔話のネライ。

N aru mugasɨ-nẹ tomodacɨqko saNniN asʉNda
ある 昔に 友達 三人 遊んだ

wage-sjæ. sono dogi-sjæ futori jagwaN-de,
わけよ。 その 時, ひとりは ヤガン(禿頭)で,
(薬罐頭)

futori sɨrami-tagari-de, futori mękusare-de
ひとりは シラミタガリで, ひとりは メクサレで
(虱集) (目腐)

aqta-dogaẹ saNniN-dzʉcʉ asʉNdeda wage-da.
あったとよ。 三人いっしょに 遊んでいた わけだ。

soregara koNdo-sjæ futari (言いなおして) saNniN
それがら 今度 二人 三人

asʉN-de-sjæ ẹqsjokeme kædo-naga aruẹte-daba,
遊んで 一所懸命に 街道なかを 歩いていたら,

ja ja cjo-sjæ naNbo kætaqte-kaganɛqko jaro·-
やぁ やぁ 今日よ どんなに カユクテモカガネエツコ やろ
(痒)

ga(qte). aẹ aẹ, sɨtara-sjæ omæ mada naNbo
うか(って)。 うん, うん, そしたら お前 また どんなに

managu-sa namĩda de-de kitabatate kosɨnɛqko
マナコ(眼)に 涙が 出て 来たとて コスラネェツコ

jaruga(qte). sje-ba ore-mo jagwaN kaganɛqte
やるが(って)。 そしたら オレも ヤグワン カガネェって

saNniN-sɨte kime-da wage-da. soko-de koNdo
三人で(このように) きめた わけだ。 そこで 今度

naNmo-kaNmo sɨrami-tagari kæku-te sɨnu-ẹNda
無精に シラミタガリは 痒くて 死ぬような

wage-sjæ. aNmari agirede koNda-sjæ ko·ẹ (言い
わけよ。 あまりの ことに {あきれて どうしようもなくて} 今度 (ちょうど)

なおして) ẹ: aNbaẹ-no kawaqko-ẹNda dogo-sa ẹqta
いい ぐあいの 川のような ところへ 行った

dogi kamo ẹqpa toN-de kị-ta wage-da. oja!
とき 鴨 一羽 飛んーで 来た わけだ。 オヤ

oja! oja! oja! aqko-sa kamo ẹqpa toN-de
オヤ オヤ オヤ, あそこへ 鴨 一羽 飛んで

kị−ta−daja. ano kamo, gozjo gozjo gozjo go−
来たよ。 あの 鴨, ゴジョ ゴジョ ゴジョ ゴ

zjo gozjo gozjoqte, naNmo−kaNmo gozjo gozjo
ジョ ゴジョ ゴジョって, ただもう ゴジョ ゴジョ

gozjo qte hiqsi−de kæde sɨmaqta wage−da.
ゴジョ って 必死で かいて しまった わけだ。

soẹde siramɨ−tagari kæ dogo miNna kaẹ−de
それで シラミタガリは 痒い ところを すっかり 掻いて

sɨmaqta wage−sjæ. sogode koNdo−sjæ jagwaN da
しまった わけよ。 そこで 今度 ヤグヮン の

wage−sjæ. sɨtara, ore−mo jaro−ga−do omote,
わけよ。 そしたら オレも やろうかと 思って,
俺

koNda sono dogi ko:site gwaNdzɯri cukame−ba
こんど, その 時 こうして グヮンヅリ つかめば
(手真似)

ẹgaqtadeni, adama gwaNdzɯri cɯkame−ba ẹgaqta
いかったのに, 頭を グヮンヅリと つかめば いかった

deniqte ko: jaqta wage−da. naNbo−gæri−mo
のにといって こう やった わけだ。 何遍も
(手真似)

so: jaqtara sore−mo mada jagwaN kaNde−sæ
そう やったら, それも また ヤグヮンを 掻いて

maNzjogu−sɨta wage−da. soregara mekusare
満足した わけだ。 それがら, メクサレは,

koNda−sjæ naNto sɯrɯ, ore−mo mage−de ẹrare−
こんど, 何と する, オレも 負けては いられ

næ−do omote koNda kaNŋaẹda wage−da. sono
ないと 思って こんど 考えた わけだ。 その

dogi teqpo−demo are−ba ẹgaqta−domo−na, doqto
とき 鉄砲でも あれば よかったどもなぁ, ドッと

doqto udeba ẹgaqtani, 〈R. 低声で, managu kosɯrɯ−
ドッと 打てば よかったのに それでマナグを こする

acɯ〉 sono udzɨ−ni mekuso deroqto odosɨ−te,
のだ〉 その うちに 目糞 デロッと(すっかり) おとして

（笑大きくこのところ不分明） s o r e d e　s a N n i N − n ã ŋ a r a　k o N d o −
（しまったわけだ）。　それで　三人ながら（全部）　こんど

s j æ　k æ　d o g o − m o　k æ − d a − s i ,　s u q k a r i　d e g i − d e − s j æ
痒い（かゆ）　ところも　掻いたし,　すっかり　やってしまって

m a N z j o g u　s ¸ t a d o g a ę .
満足　したとよ。

③ 狐とむじなとを化かした話　（1967年9月3日 臨地検討）

解説：詳しくいえば<博労が狐とむじなとをうまくばかして大もうけした話>である。よく流布されている話で，話そのものは別に珍しいものではない。カラダを撫でで，コゴノ アダリ アンマリ 肉 タラネデアッテ 撫デレバ ʃ æ マダ コンダ 好エ アンバエニ ナルワゲダ など なかなか話者の巧みさを物語っている。

N　d z ɨ q c j a　d a m a q t e r e − j o .
爺（じゞ）チャ　だまってれよ。

Ü　o ę .
オエ，（うん）。

N　k i c̬ u n e − d o　m ũ z ɨ n a − d o − s j æ　n i N g e N − n i　d a m a g a s a −
狐（きつね）と　むじなと　人間に　だまさ

r e d a − d o .　k i c̬ u n e − d o　m ũ z ɨ n a − d o ,　a r e − s j æ ,　a r u
れたと。　狐（きつね）と　むじなと　あれ,　ある

b a g u r o　j a m a − s a − s j æ　k o ę n ę　w a g e d e　k i d a b a ,
博労　山へ　こういうように（な）わけで　聞いたら,

k i c̬ u n e − d o　m ũ z ɨ − n a − d o　k o N d o　h a n a s ɨ　s ɨ t e　s o · −
狐（きつね）と　むじなと　こんど　話　して　相

d a N　s ɨ t e − d a　w a g e − d a .　n a N t o　m u s ɨ .　o m æ　a s ¸ t a
談　していた　わけだ。　なんと　ムジナよ,　お前　明日

ũ m a − n i　n a r e d e j a .　o r e　d o g o　s o g o − n o　s o ę　s a g a −
馬に　なれよ。　オレ　どこ　そこの　それ　酒

j a − n i　n a N b o　t a g æ − t e m o　ę :　ũ m a − d a b a　k a u d e
屋に　どれほど　高くても　よい　馬なら　買うという

hanasɨdaN tegane, temæN−dogo uqte−sjæ ore
話だから, お前(のとこ)を 売って オレ

zjeni mo·gede kite futarisɨ−te wagerajaqte
銭 儲けて 来て 二人して 分けろうよと

so·daN−sɨteda wageda. sɨtaba koNda−sjæ kore−
相談していた わけだ。 そしたら こんどは これ

hæ e·kodo kida−do asama−ni naN naNdogi keba
は よいこと 聞いたと, 朝に 何時に 来いば

e, sɨtaba−sjæ kicune−dosa ju·nisæ asama−ne
いい (というと) したら 狐に 言うに 朝まに

hajo·ne hajægu ke·jaqte ko· eqta wage−da.
早うに 早く 来いよって こう 言った わけだ。

jo·si−do omoqte koNdo−sjæ baguro koNdo cidi−
よーしと 思って, こんど 博労 こんど 次

no asama−ni koNdo−sjæ hajoogi−ni hajægu
の 朝まに こんど 早起きに 早く

maganaqte gozja kite fukagasa kabute koN−
身支度をして 莫蓙を 着て 深笠を 冠って こん

da−sjæ degagede eqta wage−da.
ど 出掛けて 行った わけだ。

musɨ: edagæ. o·q haeneganaja. aja· hajægu
ムーよ。 いたかね。 おっー, 早いねか。 うん, 早く

egane ba nane, abeja·sɨtara−sjæ musɨ· bageda
行かなければ ならない, さあ行こうや。 したら むじなは 化けた

wage−da. naNto moqto jogu bagere−dæ. kogo−no
わけだ。 なんと もっと よく 化けろよ。 ここの

adari aNmari nigu taranedæqte nadere−ba−sjæ
あたり あんまり 肉が 足らないよといって 撫でれば

mada koNda e· aNbæ−ni naru wage−da.
また こんどは いい 具合に なる わけだ。

sa· koNda sɨqkari sɨqkari nandede koNda−sjæ,
さあ, こんどは しっかり しっかり 撫でて こんど

na·Nto koNda ę· aNbæ—ni naqta—dæ ęgo·dæ.
なんと こんど いい 具合に なったよ 行こうよ。

temodo—nę sagaja—sa ęqte kasɨ uNte kuqtara
酒屋へ 行って 糟を たくさん 食ったら

nĩŋede ke·joqte. o· o·qte. sosɨte keba zjeni
逃げて 来いよってぇ。 おー おーってぇ。 そして 来いば 銭

wageranaqte ju·dajaçɯ ãN Nda Nda zjeni wage—
分けろうよなあって 言ったのに対して うんうん そうだそうだ 銭 分け

ruqte, ęqta wageda.
ると 言った わけだ。

sɨtaba koNdo—sjæ ma ę· aNbæni bageda. sa·
そしたら こんど まあ いい あんばいに 化けた。 さあ,

ore noqte ęgudæqte ke—qcɯ buqtadæte, koNdo—
オレ 乗って 行くよって お尻を ぶったたいて こんど

sjæ zɯqto funagosɨ—no sagajamidæna (dogo—sa)
ずーっと 船越の 酒屋みたいな (所へ)

noqte ęqta wage—sjæ. na·nto mireba miruhodo—
乗って 行った わけよ。 なぁんと 見れば 見るほど

sjæ ę·ʃæ ũma—da wage—dana. koNdo—sjæ sono
いい 馬だ わけだな。 こんど, その

koro—no kaneme—dara—sjæ naNbogane uqtada—ga
頃の 金目なら どれくらいに 売ったのか

wagarane—domo, o·gada ę· ne—ni uqta wage—sjæ.
分らないけれど, だいたい よい 値に 売った わけさ。

sosɨte koNda ę—sa kɨte sɨraneɛ furisɨte, sono
そして こんどは 家へ 来て 知らない フリして, その

ũma ęqpigi tãNda mo·ge—de—gaę sono baguro—sjæ
馬 一匹 ただ 儲けてねぇ, その 博労

jorokoNdeda wage—da. sokode koNdo, sono na—
喜んでいた わけだ。 そこで こんど, その 何

nisɨte, mũzɨna koNdo—sjæ ę· kageN kasɯ kute
して, むじな こんど いい かげんに 糟 食って

ũNtagu naqta-do. maja-gara, koẹde, nĩŋede
いやに なったと。 馬小屋から, 越えて, 逃げて

kita wage-da. kisi·. kisi·. zjeN wagero-dæqte
来た わけだ。 キーよ, キーよ。 銭 分けろうよって

kita. kono cikisjo NŋA ore-dosa uso mãŋejã-
来た。 この 畜生! 貴様 オレに ウソ(嘘) つきや

ŋãqte futo kesa mugæneẹ eqtaba, soẹte hogo-sa
がって, ひとが けさ 迎えに 行ったら そして よそへ
(自分をいう) 不分明

kagurede enede ẹma sũŋuni dʒeN nosimo jogu
隠れて いないで, 今 すぐに 銭 (

degi-da-dote futari site koNdo keN-kwa amaqta-
) 二人 で こんど ケンカを はじめた

dona. naNmo kaNmo, siræ deba kuræqte kumi uci
と。 なにも かもすべて, 白いと いえば 黒いと言って, 組打ちを

jaqta wa-ge-da. sitaba sono baguro koNda
やった わけだ。 そしたら その 博労 こんどは

zjeN unto mo·gede simate koNdo kiçune-do
銭 うんと 儲けて しまって こんど 狐と

mũzina ……(未完のままテープ切れにて無録音)
むじな ……

④ 無実の罪に泣く如来さま

解説:和尚さんがこっそりかくして賞味していた<烏賊の塩辛>小僧が発見留守中deroqtoと食ってその罪を,あろうことか,如来様に塗りつけたという話。つまり塩辛を御堂の如来さんに塗りたくっておいたのである。さては和尚に打たれて如来さん<食わん><食わん><それ見ろ小僧クワンではないか>小僧なにくそとこんどは如来さんをそっくり釜へ,ついに如来<クタクタ クタ><それ御覧じろ和尚さん云々>となる。

N (mukasi-no oqsaN mãNçu ma-sjæ), namakusamono
(昔の 和尚さん まず まあ), 生臭物(なまくさもの)

kuẹba-sjæ nãmakusa-bo·zuqte ẹwareruqte-sjæ
食えば 生臭坊頭と 言われるといって,

kobocja-ni kwasenede oqsaN-bari kuqta moNda
小坊頭に 食わせないで 和尚さんばかり 食って いた

waqe-da, mugasi-ne-na. soę koNdo-sjæ ęga-no-
わけだ, 昔になぁ。 それ, こんど, 烏賊の

sjogara kame-sa kagusite sositе-sjæ soqte
塩辛を 甕に 隠して, そしてよ, そして

zibuN-de koNdo ogjo-ni dehata waqe-da. sita
自分で こんど お経に 外出した わけだ。 そうした

ori-ni koNdo kobo· ję-nę ędе sono sagasi-te
折に, こんど 小坊が 家に いで, その, 探して

aqte sono ęga-no-sjogara kame-ni futoçu de-
歩いて, その 烏賊の塩辛を 甕に ひとつ デ

roqto kutesimata waqe-da. soędе koNdo sono
ロリと 食ってしまった わけだ。 それで, こんど その

oqsaN kitesjæ sono ęga-no-sjogara kudo omote
和尚さん (帰って)来て その 烏賊の塩辛を 食おうと 思って

midaba nε waqe-da, namo. soęgara sono oqsaN
見たら, ない わけだ, すっかり。 それから その 和尚さん

ju·ni, kozo· kono ęga-no-sjogara dare kuqta-
言うには, 「小僧! この 烏賊の塩辛, だれが 食った」

teba-sjæ kuqta kuqta no-gori-sjæ njoræsaN-sa
と言ったら, (食った) 食った のこりを 如来さんへ

deroqto noqte oęda waqe-da. sogode, njoræsaN
デロリと 塗って おいた わけだ。 そこで, 「如来さんが

kuqtaęNtaqte so· ęqta waqe-da. njoræsaN sje-
食ったようだ」と そう 言った わけだ。 「如来さんが, それな

ba sjogara kuqte ju· kodo aruga. uso-dara
ら, 塩辛を 食って いう こと あるか」 うそなら
(うそだと思うなら)

midekere, osjosaN. njoræsaN mamaNde kuçicju·-
「みてくれ, 和尚さん」 (みたら)如来さん すっかり 口中

sjæ sjogara nodagute eda-do. uso-dara mini
塩辛を 塗りたくって いたと。 うそなら 見に

aNde kereqte, eqte midaba na·ruhodo njoræsaN—
一緒に来て くれっていうので 行って みたら なるほど 如来さん

sa maroqkiri sjogara nodaguteda wageda.
へ すっかり 塩辛を 塗りたくっていた わけだ。

soede koNdo njoræsaN—sjæ hoNtonimo—sjæ kuqta—
それで こんど 如来さんが ほんとに (塩辛を)食っ

ga kwanegaqte koNdo—sjæ kõNbo—do oqsaN—do
たか 食わないかといって こんど 小坊と 和尚さんと,

koNdo keNkwa—ni naqta wage—da. soẹde koNdo
こんど, ケンカに なった わけだ。 それで, こんど,

masaga—ri moqte—sjæ njoræsaN—dogo koNdo tada—
マサカリを 持って 如来さんを こんど 叩い(たた)

da—do. koNda—ni—sjæ kuqte kuɕi—sa cɨke—de ẹde
たと。 このように 食って 口(くち)へ つけて いて

nasɨte—sjæ kwanɛqte sono Nna kodo arumoN—dado
何で 食わない そんなこと あるものかと

mote tadadaba—sjæ njoræsaN kwaN kwaNqte nada
思って 叩いたら 如来さん くわん くわんと

naqta wage—da. sono njoræsaN masagarimoqte
泣いた わけだ。 その 如来さん マサカリで
(鳴いた)

tadadaba kwaN kwaNqte, so·ra kwaneqte juqta
叩いたら クワン クワンと, そーら 食(く)わんって 言った,

hora, kõNzo· Nŋa kuqtaaɕu—ni maɕigaẹ nɛqte.
ほら 小僧 貴様 食ったのに ま違(ちが)い ないってぇ。

josɨ, sɨtara—sjæ dogo—mademo so· jaqte kuɕɨ
よし, それなら, どこまでも そう して 口(くち)

oɕinɛgoqtaba njoraẹsaN—dogo nide sɨmauqte.
落ちないことなら 如来さんを 煮て しまうってぇ。

kama—sa o·gida kama—sa koNdo—sjæ hi tade,
釜へ 大きな 釜へ こんど 火 焚いて

njoraẹsaN sjede nida wage—da. nidate kita—ba
如来さんを 入れて 煮た わけだ。 煮立って 来たら

kuta kuta kuta kuta kuta kuta kutaqte nada
クタ　クタ　クタ　クタ　クタ　クタ　クタって　鳴った

wage-da. soede, njoræsaN-sjæ osjosaN kore
わけだ。　それで,　如来さん,　和尚さん　これ

mire-do. koNdo kuci ociidaga-na, kuta kuta
みろと。　こんど　口　落ちたかな,　食タ　食タ
クチ　ク　ク

kuta kutaqte ju·do. so· ju· wagede koNdo
食タ　食タって　言うぞ。　そう　いう　わけで　こんど

kobo·ni kaqte oqsaN mageda-do.
(子)坊に　かかって　和尚さん　負けたと。
小

⑤ ダンゴがドンになった話コ

解説：流布広い昔話。
ドンと小川を飛びこえたら忘れじと連呼し来りしダンゴがドンとなり，ついに夫婦ゲンクヮとなる。馬鹿聟じれったさに嫁をゴワンと，嫁立腹ヒトノ　アダマサ　ダンゴミデァダコブツグテとなって，ダンゴが馬鹿殿の頭にようやく登場となる。

N bagamugo ede aqta wage-da-na.
馬鹿聟が　いた　わけだ。

sogode, koNdo-sjæ jome moraqtaba, jome-no
そこで,　こんど　嫁を　もらったら　嫁の

je-sa-sjæ hĩDaNdogi kitaba, koNdo asine jaq-
家へ,　彼岸の時が　来たら,　こんど　遊びに　やっ

tado, sono mugo-dogo-na.
たと,　その　聟をな。

S site maene sjabenegaqta?
して,　(この話)前に　話さなかった?

N sjabenegaqta-naja
話さなかったよなぁ。

U sjabere sjabere
シャベレ　シャベレ　(小さく低い声)

N s o r e g a r a k o N d o s o g o − n o j ẹ − n o m o n o k o N d a
それから こんど そこの 家の 者 こんど

d a ~ N ŋ o k w a s j e d a w a g e d a , h i ŋ a N d a t a m e n i − n a . s a ,
団子を 食わせた わけだ, 彼岸だのでな。 さあ,

s o n o d a N ŋ o n a N b o g a ~ u m æ k u t e k u t a N d a g a k u q t a −
その 団子 どんなにか おいしく 食ったものか, 食っ

k o d o − m o n ɛ , h a n a s i − m o s i r a n ɛ ẹ N d a d a N ŋ o − d e
たことも ない, 話にも 聞いたことのないような 団子で

~ u m æ g æ q t a N − c j a k o N d o k o r e ~ u m æ m o N d a n a k o r e
とてもうまかった こんど これ うまい もんだなぁ これ

n a N t o j u · m o N d a q t a b a − s j æ d a N ŋ o − d a q t e . o m æ − n o
なんと いう もんだといったら 団子だってぇ。 お前の

j ẹ − s a ẹ q t e o r e − n o d a r e − s o r e − n i k o s i r a s j e − d e
家へ 行って オレの だれそれに こしらえさせて
(嫁入った娘)

k u e q t e , s o · ẹ q t a w a g e − d a . k o N d a s o n o d a N ŋ o ,
食いって そう 言った わけだ。 こんど その 団子,

w a s u r e t a g u n ɛ − d o (o) m o t e − s j æ k o N d a − s j æ j ẹ − s a
忘れたくは ないと 思って, こんどは 家へ

k u r u − n a ~ ŋ a r a d a N ŋ o d a N ŋ o d a N ŋ o d a N ŋ o q t e , d o −
来ながら 団子 団子 団子 団子って ど

g o − m a d e m o − s j æ d a N ŋ o d a N ŋ o q t e k i ̣ t a w a g e − d a .
こまでも 団子 団子って 来た わけだ。

s j e g i ẹ q p o a q t a w a g e − d a . n a N t o m a d a g æ n æ k u t e
小川 一本 あった わけだ。 なんと またがれなくて

d o N t o m a d a N d a w a g e − d a . s a · k o N d o d a N ŋ o w a s u −
ドンと またいだ わけだ。 さあ, こんど 団子 忘

r e d e s i m a t e d o N d o N q t e k i ̣ t a w a g e − d a . s o k o d e
れて しまって ドン ドンって 来た わけだ。 そこで,

k o N d o − s j æ j ẹ − s a k i ̣ t e − s j æ a b a d o N k o s j o − d e k w a −
こんど 家へ 来て アバドン こさえて 食
(主婦・自分の嫁)

s j e r ẹ q t e s o · ẹ q t a w a g e − d a . t e d e n a N t o s j e b a
わせろって, そう 言った わけだ。 テデ なんと すれば
(主人, 自分の夫)

doNte naNno koqtaqte. doN kosjode kwasjere,
(いい)ドンって なんの こったってぇ。 ドン こさえて 食わせろ,

ẹma-sjæ Nŋa-no jẹ-sa ẹqte doN kuqte kịtaba
今 お前の 家へ 行って ドン 食って 来たら

cɨto-baga-no ũmæ moNdenɛ, doN kwasjre(qtara)
ちっとやそっとの うまい もんではない, ドン 食わせろっていったら (不分明)

doNqte ora sɨraneqte, naNto doN sɨranɛ kodo
ドン 知らないってぇ, なんと ドン 知らない こと

aru moNdaga, jẹ-sa ẹqte kosje-de morate keq-
ある ものかと, 家さ 行って こさえて もらって 食え

te ẹqta moNda monosjæ sɨrane·de kodo aru
って 言った もんだ もの, 知らないという こと ある

moNdaga-to ju·moNde koNdo keNkwa-ni naqta
もんかと いうので, こんど 喧嘩に なった

wage-da. aba-dogo koNdo sịtadagani koNdo-sjæ
わけだ。 アバを こんど したたかに こんど

tadade sɨmata wage-da, adama-sa. a:q, ẹdæ,
叩いて しまった わけだ, 頭を。 あっ, いたい

ẹdæ, kono tede-jo adama-sa daNŋo hodo-no kōbu
いたい この テデよ 頭に 団子 ほどの 瘤(コブ)

cɯ-da. aba, sono daNŋo-jaẹ.
付いた。 アバ! その 団子よ。

⑥ 風雅を解するジッチャとバンバ

解説：バンバ 髪なく，ジッチャ 鼻なし。<似たもの夫婦>でなかなか円満。さすがにバンバは女性，髪なきあたりは掛手拭。ところがさる日のさる折手拭kapparıと落ちる。ジッチャ感に堪えず一首，後二句 ヌイデミタレバ グルノカメ，カメはつるりと，はげ頭。バンバまた負けてはならじと<花>に<鼻>をあしらい，ハナ ナキトキハ サビシカルラムと詠んだわけ。

N aru mugasɨ-ni dzɨqcja-do baba-do ẹde aqtadegaẹ.
ある 昔に 爺と 婆 いて あったと。

so e−de koNda−sjæ baba−do−ni kami oęde negaq−
それで こんど 婆さんには 髪が 生えて なかっ

ta wage−da. dzɨqcja−do−ni hana negaqta wage−
た わけだ。 爺さんには 鼻が なかった わけ

dana. soęde fu·fu−ni naqtedado. soede koNda−
だなぁ。 それで 夫婦に なっていたと。 それで こんど

sjæ baba jama−sa ęqte koNda−sjæ nimoçɯ sjoq−
婆が 山へ 行って こんど 荷物 背負

te kịta wage−sjæ. naNto−sjæ ęqsjokẽme aqte
って 来た わけよ。 なんと 一所懸命 歩いて

kịta−ba kowakute koNda−sjæ doqsạri orosɨte
来たら 疲れはてて ドサリと 降ろして

ko·sɨte−sjæ toqkuragæqte kojasɨta−ba kami−no
こうして ひっくり返って このようにしたら 髪の

ne−sæ sono tenoꝑoęqko kqpara−do toreda wage−
ない その 手拭 カッパラと 取れた わけ

da. sogode, dzɨqcja ju·ni−na na·Nto koNdo−sjæ
だ。 そこで, 爺さん 言うに なぁんと こんど

naNtoga juęba ę·Ndaga ade ne wage−da mida
なんとが いえば いいのか 的(あて)が ない わけだ, みた

kodo nɛgaqtaNte, soregara
こと なかったので, それから

sɨ̃ba−ni kagedaru kagetonõꝑeqte
シバに かけたる 掛手拭

wage−dana
わけだなぁ。

noęde midareba guru−no kameqte
脱いで みたれば グルの カメって

ko· ęqta wage−da. sɨta−ba, sono baba mada
こう いった わけだ。 そしたら, その 婆 また

magedereba e·domo, ore midæna· moN−de
負けていれば いいけれど, オレ みたいな もんで,

haru−wa hana, naçu−wa momĩzi agi−wa ki−
春は 花 夏は 紅葉(もみじ) 秋は 菊

guqte wage−da
って わけだ。

hana nagi togi−wa sabiɨkaruraNqte
花 無き 時は さびしかるらんってぇ

wage−da. sore−de, doqcɨ−mo docɨ−da wageda.
わけだ。 それで どっちも どっちだという わけだ。

sorede maNzjogu sɨtena. iqsjo owaqtadona.
それで 満足 して 一生 終ったとよ。

topi (N parari)
トッピ (ンパラリ)

⑦ 餅粉(もちこ)の整鼻術

解説：鼻の低いビッチャが餅粉を練っていやたかだかに鼻を整え揚々と寝入りをする。鼻の高くなった男ぶりをハナハナハナホドエーオドゴといっているのがおもしろい。ハナハダ(甚)にハナ(鼻)とホド(程)とを懸けているようである。床入りとなって思わざる伏敵出現，一晩勝負で豪華なハナハナハナホドヨイそれも見るかげもなく退治されたという話コである。

N (hana−no) tagæ odogo−buri−no ę· jaçɯ hosɨqte
(鼻の) 高い 男振りの いい 人が 欲しいとて,

kono fɯto ęgugoqtaba ha zɨbuN−de go·kagu−da
この 人 行くなら ハァ 自分で 合格で

aqta. soede koNdo jaę maNçɯ tadefũda−ni jote
あった。 それで こんど やれ まず 立札に よって

mairimasɨtaqte maNçu ęqtaNtegaę. ęqtaba
参りましたって まず 行ったとよ 行ったら

koNdo−sjæ omæ−daba hana fugukute ęgeneqte
こんど お前は 鼻 低くて よくないとて

mãNçu soę ragudaę−sɨta wage−da.
まず それ 落第した わけだ。

sore-gara mada çʉ̃ɒi-ni ẹtqemo mada omæ-hana-
それがら また 次ぎに 行っても また お前の鼻

daba midagunakute ẹgenɛqte ju· wage-da. mada
は 見ぐるしくて いけないと いう わけだ。 また

cʉ̃ɒi-ni koNda-sjæ naN-to sịtara ẹNderoga-do
次ぎに こんどは なんと したら いいだろうかと

omote koNd-sjæ ẹ· maNçu ẹqsjokeNme ko hadade
思って こんど いい まず 一所懸命 粉(コ)を はたいて

koNda-sjæ komoçi kosjede ẹ·aNbæ-ni sɨte koN-
こんどは 粉餅(コモチ) こしらえて よい具合に して こん

da hana-sa-sjæ ko·sɨte kire·-ni noqte-sjæ ko·-
どは 鼻へ こうして きれいに 塗って こう

sɨte hanako kosjede ẹqta wage-da. sosịte-sjæ
して 鼻ッコ こさえて 行った わけだ。 そして,

kaNbaN-ni joqte maẹrimasɨdado. oẹ maçʉ-sjæ
看板に よって 参りましたと。 おい まず

kono hito-dara go·kagu sanega-do omote cʉre-
この 人なら 合格 しないかと 思って 連れ

de ẹq-ta wage-da. naN·to midadogo næ hanaha-
て 行った わけだ。 なぁんと 見たことも ない ハナハ
(鼻甚ダをおも

nahanahodo ẹ· odogoda wage-da. naNmo kamo
ナハナホド いい 男だ わけだ。 なんも かんも文句なしに
しろく言った？)

hana-daba kire·ni-sjæ naNto cjaN-to sịta uqte
鼻は きれいに なぁんと ちゃあんと した 頗(スコブ)る

ẹ· odogoda wage-da. mamaNde ãNda midæ-da
いい 男だ わけだ。 (それは)まるで 貴方 みたいな

hitodaqtaNtegaẹ. sore-de koNdo-sjæ kore-daba
人であったとよ。 それで こんど これなら

ẹ·qte koNdo hanahana-hodo ẹ· moNdagara kore-
いいって こんど ハナハナホド いい もんだから これ

ha ẹ· odogo-dado omote morata-wage-da. soẹde
ハァ いい 男だと 思って 貰ったわけだ。 それで

koNdo gosju·gi s+te ęqtantegaę. ętaba ę·Nda-
こんど 御祝儀 して 行ったとよ。 行ったら それは

tate koNda-sjæ neda wage-da. sogo-no ęnę
いいが, こんどは 寝た わけだ。 そこの 家に

naNbogahodo nẽz+mi ęda moNdaNdaga futo-bã9e-
どれほどか 鼠が いた もんだやら (たった)一晩

sjobu-de sono hana taęzi-s+te s+maqtadona.
勝負で その 鼻を 退治して しまったとな。

jaqpari bicja-no modo-no biqcja-de aqtado.
やっぱり ビッチャの もとの ビッチャで あったと。
(鼻低)

(笑)

K modo-no biqcja
もとの ビッチャ

N modo-no biqcja-de aqta wage-da-na. hanahana-
もとの ビッチャで あった わけだな。 ハナハナ

hanahodo ę· odogode aqta-domo, koNdo nẽz+mi-
ハナホド いい 男で あったけど, こんど 鼠

ni kaqte…… kãz+rarede ……
に かかって …… かじられて ……

⑧ 米ぶぐと粟ぶぐ

解説：ゴギリは<後家入り>で後妻のことである。
後妻のママコイジメの話で，コメブグは前妻の子でアワブグは連れ子。途中で話者コメブグとアワブグとをとりちがえたところがある。子供のカクレンボに先妻の子をヌガの中に，わが子をコメの中にかくしたが，ヌカはかるくふわやかでコメブクは生き，コメだと安心して隠したアワブクは重さに息もできず冷たくなっておったでトッピンパラリとなる。
(注) 上記<ヌカ>は<籾殻>である。

N gogiri, gogiri so·-sjæ mugas+-nę arutogoro-nę
(後家入) 後妻, そう 昔に あるところに
後添

gogiri moraqta wage-sjæ. saęsjo-no sɨNda
後妻 貰った わけよ。 最初の 死んだ

futo-no ko-wa-sjæ komebugu-doju· onãɒo-warasɨ
人の 子は 米ブクという 女子童
コメ

ęda-dosa. koNda-sjæ gogiri mada-sjæ awabugu-
いたとさ。 こんど 後妻 また 粟ブクと

do ju·ko cʉde jomeN naqte kita wage-da. sore-
と いう子 連れて 嫁に なって 来た わけだ。 それ

de-sjæ naganaga koNdo sono gogiri-sjæ sono
で なかなか こんど その 後妻よ, その

komebu-dogo nigusɨte sinuęNda wage-sjæ.
米ブクを 憎くて 死ぬような わけよ。
(死ぬほどにくいの意)

sjeba ano agi-ni naqta-ba-sjæ kuri furou-ni
すると, あの 秋に なったら 栗を 拾うのに

futari-dzʉcʉ jaqtaba-sjæ mãNçʉ komebugu-fugu-
二人一緒に やったら まず 米ブクの袋

ro-no keqcʉsa-sjæ ana agede, awabugo awabugu-
の 尻に 穴を あけて, 粟ブゴ 粟ブグ

fuguro-daba-sjæ biqcɨri noqtaNdawage-da.
の袋は ピッチリ 縫ったわけだ。

soę-de-sjæ komebugu naNbo ęqsjokeNme furoqta-
それで, 米ブグ いくら 一生懸命 拾って

ţate tamara-næ wage-da. sono sɨrɨ·jacʉ-sjæ
も たまらない わけだ。 その うしろのの
(袋)

komebugu-aqcja-daba tamaru wage-da. <K awa-
米ブグの のは たまる わけだ。 <K 粟
(粟ブグの誤)(袋) <米ブク>

bugu.> sjeba-sjæ koNdo naNtomo kaNtomo je-sa
ブグ。 すると こんど 何とも かんとも 家に
でなく<粟ブク>だと誤を正した

ęgeba koNdo-sjæ sono ojagada-sa-sjæ sagi-no
行けば こんど その 親方へ 先(妻)の

ko-dogo mãçʉ dohe-dado, naNto kuri-mo furoqte
子のことを まず ドヘだと, なんと 栗も 拾って
<あほう>

kene–de, awabugu–daba–sjæ ęqpæ furoqte kite
くることができず, 粟ブクなら いっぱい 拾って 来て,

komebugu futoqcʉ–mo furoqte kone–do. koNdara
米ブグ 一つも 拾って 来ないと。 こんな

ko–nę ęqte, maęniçi–no ęnimãNçʉ–ma–sjæ kusa–
子に 言って 毎日の 様にまずまあ 鎖

ricʉgedeedaNtegaę. sogode, koNdo, aru dogi,
つけて(いじめて)いたと。 そこで こんど ある とき

(言いなおして→)
ojagada jotasi–ni eqte ęnedogi–sæ kagureNbo
親方 用足しに 行って いない時 (隠れんぼ

jaru, kagureNbo jareqte koNdo jueçʉge–da wa–
やる) 隠れんぼ やれってぇ こんど 言い付けた わ

ge–da. sositara ore koNda omæga da–dogo kagu–
けだ。 そしたら オレ こんどは お前らを かく

si–te misjeruqte. sosi–te koNdo ŋŋako–dogo
して みせるってぇ。 そして こんど 自分の子を

koNdo awabudogo koNdo kome–no nagasa kagusi–
こんど 粟ブクを こんど 米の 中へ かくし

ta wage–da. sore–gara koNdo komebugu–dogo
た わけだ。 それから こんど 米ブクを

noga–no nagasa kagusi–teda wage–da. naNbo
籾殻の 中へ 隠していた わけだ。 いくら

daqte–sjæ sono micʉkeraęne wage–dana, Nna
たっても その 見付けられない わけだなぁ, みんな

kagureNbo jaqte sãŋasi–ni aqtatate micʉkera–
隠れんぼ やって 探しに 歩いても 見付から

renæ wage–da. si–taba si–mɛ–ni naqte koNdo–sjæ
ない わけだ。 したら, しまいに なって こんど

nani–si–ro ŋŋako kome–no naga–sa haqte hęde
何しろ 自分の子 米の 中に 入って 冷えて

si–maqte oNbodæaçʉ–de si–Ndeda wage–da. noga–
しまって 重たいので 死んでいた わけだ。 籾殻

no naga−sa haqta ko koNdo ẹgideda wage−da.
の 中に 入ってた 子 こんど 生きていた わけだ。

soẹ, sore, ŋŋa kãNzjo−daba mãNdzɯ mãdzɯ kome−
それ, それ, 自分の 考えだと まず まず 米

no naga−sa sje−de ogeba kome kuqte ẹgideru−
の 中へ 入れて おけば 米を 食って 生きている

do omote sosɨte ẹda wage−sjæ, na·. kome kuqte
と 思って そうし いた わけよ, なあ。 米を 食って

ẹgideru−do omoqtedajaçɯ−ŋa−sjæ sjede sɨN−de,
生きていると 思っていたのが 冷えて 死んで,

noga−naga−ni ẹda jaçɯ−wa−sjæ karokesɨ, nogisɨ,
籾殻(モミガラ)の中に いた のわ 軽いし, 温いし,

sorede ẹgideda wage−da. Nde, koNzjo wari ko−
それで 生きていた わけだ。 それで, 根性の 悪い こ

do sjeba zɨbuNno ko zɨbuN−de korosɨte sosɨ−
とを すれば, 自分の 子を 自分で 殺して そうし

te ẹnegunaNne wage−sɨ, na·, so· ju· hanasɨ−
て いなくならねばならぬ わけよ, なあ。 そう いう 話

naNda.
なんだ。

非　売　品

1968年3月

国立国語研究所　話しことば研究室　発行

東京都北区稲付西山町